

PoE BOOT
nino
PoE8M2
(FW:1.00A用)
詳細版

■ 取扱説明書 ■

明京電機株式会社

ご購入ありがとうございます

弊社リポーター PoE BOOT nino PoE8M2をご購入いただきありがとうございます。

PoE BOOT nino PoE8M2はネットワーク経由でシステム機器の制御/管理をする遠隔自動電源制御装置です。2個の100VAC電源を個別に遠隔制御/管理できます。

また、NTPサーバーに接続することにより、週間スケジューラーとしてもご利用になれます。

PoE BOOT nino PoE8M2が皆様の所有されるネットワークシステムにおいて有効かつ有用なツールとして機能することを願っております。

この取扱説明書を必ずお読みください。

本書はセットアップ手順と、操作、設置、安全の確保などのための手順が記載されています。

ご使用前に、必ず本書をお読みください。

付属品一覧

本製品には次の付属品が同梱されています。必ずご確認ください。

1. セットアップガイド 兼 保証書
2. 3P/2P変換プラグ



当社ホームページ (<https://www.meikyo.co.jp/archive/>) に、運用に便利なソフト等がありますのでダウンロードしてご利用ください。

1. 取扱説明書（詳細版） PDFファイル（本書）
2. RPCサーチソフト
3. ネットワーク稼働監視ソフト
4. プライベートMIBファイル

安全上のご注意



この取扱説明書での表示では、本装置を安全に正しくお使いいただくために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは家屋家財および家畜ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

 分解・改造禁止	⊙は、禁止（してはいけないこと）を示します。具体的な禁止内容は ⊙の中や近くに絵や文章で示します。左図の場合は「分解・改造の禁止」を示します。
 電源プラグを抜く	●は、強制（必ずすること）を示します。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜くこと」を示します。

警告

●万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く！

煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。火災や感電の原因となります。このようなときは、すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店や弊社にお問い合わせください。



電源プラグを抜く

●AC100V（50または60Hz）以外の電源電圧では使用しない

表示された電源電圧（交流100V）以外の電圧で使用しないでください。特に110Vを越える電圧では製品を破壊するおそれがあり、火災の原因となりますので、絶対に接続しないでください。



交流100V

●本装置の電源アースあるいはFG端子を接地する

本装置の電源プラグのアースあるいはFG端子を接地してください。感電や故障の原因となります。



アース接地

●本装置後面のACコンセントは10.5Aまで

本装置後面のACコンセントは、供給できる容量の合計は最大で10.5Aです。合計10.5Aを越えて使用しないでください。火災や故障の原因となります。



最大容量10.5Aまで

●たこ足配線をしない

本装置の電源は、家庭用電源コンセントから直接取ってください。本装置のACコンセントに、電源用テーブルタップなどを接続して使用しないでください。火災や故障の原因となります。



たこ足配線禁止

●電源コードを大切に

コードに重いものを載せたり、熱器具に近づけたりしないでください。コードが損傷し火災や感電、故障の原因となります。また、コードを加工したり無理に曲げたり引っ張ったりすることも、火災や感電の原因となるのでおやめください。コードが傷んだ場合はお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



コードを乱暴に扱わない

●極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない

本装置はパソコン及びパソコン周辺機器と接続する用途に設計されています。人命に直接関わる医療機器などの極めて高い信頼性または安全性が必要とされる機器には接続しないでください。



パソコン機器専用

●ぬれた手で本装置や電源プラグにさわらない

ぬれた手で本装置の操作を行なわないでください。ぬれた手で電源プラグを抜いたり、差し込んだりしないでください。感電の原因となることがあります



ぬれた手でさわらない

●本装置の上や近くに水などの液体を置かない

本装置に水などの液体が入った場合、火災、感電、故障などの原因になります。



液体を近くに置かない

●異物を入れない

製品に、金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。万一異物が入った場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



内部に異物を入れない

●ヘアースプレーなどの可燃物を本装置の上や近くに置いたり、使用したりしない
スイッチの火花などで引火して火災の原因になることがあります。



可燃物禁止

●雷が鳴り出したら製品や電源プラグに触れない

感電の原因となります。本装置には、落雷用保護回路がありますが、FG端子を接地して、アースされた状態でないと十分な効果を発揮しませんのでご注意ください。



雷のときは、触れない

●分解したり改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、カバーをはずして内部の部品に触ったり、製品を改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。



分解・改造禁止

●製品を落したりして破損した場合は

そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、前面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までお問い合わせください。



電源プラグを抜く

●火災・感電・事故・傷害の発生する危険がある機器は、遠隔制御機能を利用しない
遠隔制御機能を利用する場合は、遠隔操作での突然の稼働により火災・感電・事故・傷害の発生する危険がある機器は接続しないでください。特に、電気ストーブや電熱器など熱を発生するものは、火災の原因となりますので絶対に接続しないでください。また、接続される機器の安全性に関しては、接続される機器のUSB等のアウトレットにも遠隔操作によって危険がないことを確認して下さい。
本機に接続される機器は、必ず、本機の近傍にあり、本機の近傍にいる人が危険を感じた場合、機器の電源プラグを容易に外せるようにしてください。



遠隔制御禁止

注意

●電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。
コードを引っ張って抜くと傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。



コードを引っ張らない

●風通しの悪いところに置かない

製品を密閉された場所に置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。



風通しの悪い場所禁止

●温度が高くなるところに置かない

直射日光の当たるところや熱器具の近くなど、高温になるところに置かないでください。やけどや火災、故障の原因となることがあります。



温度が高い場所禁止

●お手入れのときは

本装置の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください(絶対に、電源プラグやコネクタなどの接続部をこの方法で拭かないでください)。薬品類(ベンジン・シンナーなど)は使わないでください。変質・変色する場合があります。本体に接続されている電源プラグやコネクタなどの接続部のお手入れは、電源プラグやコネクタを抜いて、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず本装置の電源プラグをコンセントから抜き、本装置に接続されている電源プラグやコネクタ類も全て抜いてから行ってください。感電や故障の原因となることがあります。



電源プラグ
を抜く

●湿気やほこりの多いところに置かない

湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。



湿気・ほこり禁止

●逆さまに設置しない

本装置を逆さまに設置しないでください。また、布等でくるんだ状態での使用もおやめください。特に、ビニールやゴム製品が接触している状態での使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。



逆さま禁止

●電源プラグとコンセントの定期点検を

電源プラグとコンセントは長時間つないだまましていると、ほこりやちりがたまり、そのままの状態で使用を続けると、火災や感電の原因となることがあります。定期的な清掃をし、接触不良などを点検してください。



定期点検

●DIPスイッチの操作に金属製のもの、鋭利なものを使用しない

DIPスイッチのレバーを操作する時には、先端が丸みのある柔らかい木製のものを使用してください。硬い金属製のもの、鋭利なものを使用すると、レバーを破損してしまったり、接点部の接触に支障をきたしてしまったりする恐れがあります。



DIPスイッチ操作

●本装置は日本国内のみで使用

国外での使用は、電源電圧などの問題により、本装置が故障することがあります。



国内のみ使用

●不安定な場所やお子様の手の届く所には置かない

ぐらついた台や本装置より面積が小さいものの上や傾いた所、また衝撃や振動の加わる所など、不安定な場所やお子様の手の届く所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがや故障の原因となります。



不安定な場所禁止

●ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害を与えることがあります。



ラジオ、テレビの近く禁止

●データの保存について

データの通信を行なう際には、あらかじめデータのバックアップを取るなどの処置を行なってください。回線や本装置の障害によりデータを消失するおそれがあります。



バックアップ

●花瓶やコップ、植木鉢、小さな金属物などを本装置の上に置かない

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水などが内部に入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。



上にものを置かない

●踏み台にしない

本装置の上に乗らないでください。倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。



踏み台禁止

目次

目次.....	8
第1章 はじめに.....	10
1. 機能概要.....	11
2. 各部の名称と機能.....	12
3. DIPスイッチの設定.....	13
4. LED表示について.....	14
第2章 設置・取付.....	15
1. 設置・取付.....	16
2. ラックへの取付.....	16
3. 固定方法.....	16
第3章 初期設定.....	17
1. 初期設定.....	18
2. 初期化の方法.....	21
第4章 Webブラウザでの設定, 制御.....	22
1. ログイン.....	23
[1] IPアドレスを固定にして利用する場合.....	23
[2] RPCサーチャソフトを利用する場合.....	25
2. 設定項目.....	26
[1] システム設定.....	26
[2] ネットワーク設定.....	38
[3] 監視設定.....	47
[4] スケジュール.....	54
[5] システム情報.....	56
[6] 簡易説明.....	57
[7] CPUリセット.....	57
3. 状態表示項目.....	58
[1]簡易情報表示.....	58
[2]詳細情報表示.....	59
4. 電源制御.....	64
[1]電源制御.....	64
[1]-1 PoE出力制御.....	65
[2]仮想制御.....	67
[3]一斉制御.....	67
第5章 その他の設定.....	68
1. TELNETによる設定.....	69
[1]TELNETでの接続方法.....	69
[2]TELNETコマンドによる設定.....	70
第6章 その他の制御.....	72
1. TELNET接続による制御.....	73
[1]TELNET接続による制御.....	73
■TELNET制御コマンド一覧表.....	74
2. メールからの制御.....	76
3. WEBコマンドからの制御.....	77
第7章 ログイン機能.....	78
1. ログイン機能の設定・表示.....	79

第8章 SNMPについて.....	82
1. SNMPについて.....	83
2. 機器設定.....	83
3. MIBについて.....	85
第9章 ネットワーク稼働監視.....	86
1. 機器設定.....	87
2. RPC-EYE v3の利用.....	88
第10章 PoEハブとの接続.....	89
1. PoEハブ制御用スクリプト.....	90
【スクリプトについて】.....	90
2. 通信結果, 状態取得.....	92
[1]エラーコード.....	92
[2]受電デバイスの状態表示.....	92
第11章 仕様一覧.....	94
■変数一覧表.....	95
■ログ一覧表.....	101
■制御コマンド一覧表.....	103
■仕様一覧表.....	105

第1章
はじめに

1. 機能概要

本装置には以下の機能があります。

- 1) 2個の100V AC電源を個別に制御/管理
- 2) 通信による電源制御
 - WEBからの電源制御と設定
 - TELNETからの電源制御と設定
- 3) スケジュールによる制御
 - 週間スケジュールによる電源制御
- 4) 監視機能
 - 電源状態の監視
 - ICMPによる死活監視 (PING監視)
 - ハートビートによる監視
- 5) 各デバイスへの遅延電源投入
 - 本体電源投入時に、指定した順番、タイミングによる各デバイスの起動
- 6) メールによる制御や通知
- 7) センター通知機能
 - 電源状態と死活監視状態をセンターへ通知
 - (MSRP)RPC-EYE v3対応

MSRPは、明京電機独自のプロトコルです。
- 8) SNMPエージェント機能
- 9) 通信による遠隔バージョンアップ
- 10) 通信中継機能 (TELNET通信)
 - TELNETクライアントとして通信
- 11) マジックパケットによる起動
- 12) PoEハブに接続されている受電デバイスへの給電ON・OFF・REBOOT
 - WEB画面からの制御、メールによるコマンド制御、ダイレクトWEBコマンドでの制御

2. 各部の名称と機能

フロントパネル



リヤパネル



① LAN	LANケーブル（8ピンRJ45）を接続します。
② LINK LED	CPU状態を表示します。
③ ACT LED	通信状態を表示します。
④ DIPスイッチ	運用や初期化など各種モードの切替に使用します。
⑤ RESETスイッチ	出力電源へ影響を与えずにCPUを初期化します。
⑥ PILOT LED	本体に電源が投入されている場合に点灯します。
⑦ OUTLET LED	ACアウトレットの電源出力状態を表示します。
⑧ 電源コード	商用電源、UPSなどに接続します。
⑨ ACアウトレット	デバイスの電源コードを接続します。

注意 故障や漏電の時の感電防止になりますので、アース線を取り付けることをお勧めします。

3. DIPスイッチの設定

DIPスイッチの機能 (OFFは「上」、ONは「下」を意味します。)

NO.	状態	モード
1	OFF	運転モード
	ON	初期化
2	OFF	運転モード
	ON	未使用
3	OFF	運転モード
	ON	メンテナンスモード, 初期化
4	OFF	OFFに固定
	ON	未使用

DIPスイッチの設定

		1	2	3	4
通常運転時	OFF	■	■	■	■
	ON				
初期設定時	OFF	■	■		■
	ON			■	
初期化時	OFF		■		■
	ON	■		■	

注意 DIPスイッチのレバーを操作する時には、金属製のものや鋭利なものを使用せず、先端が丸みを帯びている木製のものを使用してください。

DIPスイッチを操作するときは、本体のACアウトレットから全デバイスを取り外してください。

DIPスイッチ操作また設定終了後は、必ず、本体前面のRESETスイッチを押してください。誤動作する恐れがあります。

初期設定は、第3章「初期設定」、「初期化の方法」を参照にして設定してください。

4. LED表示について

本体には3種類のLEDが装備されています。

- 1) LINKランプ, ACTランプ
CPUの通信状態を表示します。

LEDランプ	用途	状態	表示
LINK	CPU状態	ケーブル抜け LAN正常リンク	0.25秒点灯, 0.25秒消灯 1秒点灯, 1秒消灯
ACT	通信状態	パケット受信時 パケット未受信時	点灯 消灯

- 2) PILOTランプ

本体に電源投入されている場合, オレンジが点灯します。

本体に電源投入され, 100BASE-TXリンク時にはグリーンが点灯します。

全アウトレットの死活監視リポート回数の合計が設定値を越えたら赤が点灯します。

(初期値は12回)

メール受信サーバーへのアクセスエラー時は, 2秒点灯→0.25秒消灯→2秒点灯します。

- 3) OUTLETランプ

- ① ACアウトレットの電源出力状態を表示します。

ONの場合 : 点灯

OFFの場合 : 消灯

- ② OFF遅延中, 1秒点滅

- ③ 死活監視

1. 死活監視の動作が「リポート」または「ログのみ」の場合

(ア) 死活監視異常中 (出力ON) は, 2秒点灯→0.25秒消灯→2秒点灯

(イ) 死活監視スタート後, 全てのPING監視対象から応答を確認するまでの間, 1秒点灯→0.25秒消灯を繰り返す, その後点灯します。(出力はON)

2. 死活監視の動作が「ON」の場合

(ア) 死活監視異常中 (出力ON) は, 2秒点灯→0.25秒消灯→2秒点灯

(イ) 死活監視スタート後, 全てのPING監視対象から応答を確認するまでの間, 1秒消灯→0.25秒点灯を繰り返す, その後消灯します。(出力はOFF)

3. 死活監視の動作が「OFF」の場合

(ア) 死活監視スタート後, 全てのPING監視対象から応答を確認するまでの間, 1秒点灯→0.25秒消灯を繰り返す, その後点灯します。(出力はON)

「ON」「OFF」の設定はブラウザからは行えません。

変数 [debOIWdogAction] を直接変更する必要があります。

第2章

設置・取付

1. 設置・取付

以下の手順で設置します。

- 1) 本体を設置場所に置きます。設置場所は、単相100VAC/10A以上のコンセントに直接差し込める場所で本体背面に電源プラグが差し込める位置であることを確認します。
- 2) 本体前面のLAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 3) 本体の電源コードをコンセントに接続します。

注意 本装置を逆さまに設置しないでください。火災や故障の原因となることがあります。

2. ラックへの取付

以下の手順でラックに取り付けます。

- 1) ラック・キャビネットにプレートを取り付けます。
プレートはラックサイズに合った一般市販品をご用意ください。
- 2) ラック・キャビネットに本装置を設置します。
- 3) 本体前面LAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 4) 電源コードをコンセントに接続します。

3. 固定方法

本装置固定のため設置用の穴があります。

底面についている設置用の穴（4箇所）を利用して機器を固定します。
取り付け用のねじは、M 3×8 L (MAX) をご利用ください。

注意 壁面に取り付ける場合は、オプションの取付金具ATTO2が便利です。
オプション：取付金具（ATTO2）標準価格 3,000円（税抜）

第3章 初期設定

1. 初期設定

使用条件の確認と同意

本製品の使用にあたっては、初めに使用条件に同意していただく必要があります。

外部のネットワークから接続するために固定のIPアドレスを設定します。

設定用PCと本装置とは、LAN用コネクタにLANケーブルで接続します。
(PCと直接接続する場合は、クロスLANケーブルになります)

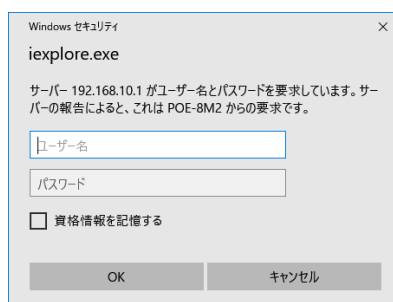
- 1) LANやVPN上に192.168.10.1および2のIPアドレスを持つホストがないことを確認します。
- 2) 設定用PCのIPアドレスとサブネットマスクを以下の通り設定します。
IPアドレス : 192.168.10.2
サブネットマスク : 255.255.255.0
- 3) 本体前面のDIPスイッチ3をONにします。
(メンテナンスモードになり、IPアドレスが192.168.10.1となります。)

注意 メンテナンスモードの場合、LANの通信速度は10BASE-Tでつながる設定になっている必要があります。

- 4) 本体前面のRESETスイッチを押します。
- 5) 設定用PCのWebブラウザを起動します。
http://192.168.10.1を指定し、本装置にアクセスします。

注意 ブラウザはJavaScriptとフレームに対応している必要があります。
Internet Explorerはver.11以上に対応しています。

- 6) ブラウザ依存のポップアップ画面が表示されます。ユーザー名（デフォルト：admin）とパスワード（デフォルト：magic）を入力します。



注意 ブラウザによっては、ポップアップ画面がアドレス入力画面の裏に隠れている場合があります。

- 7) 「ご確認のお願い」の画面が表示されます。内容を確認の上「上記の内容に同意します。」をチェックし「次へ」をクリックします。

ご確認のお願い

以下の文面をお読みになり、同意される場合のみ遠隔制御機能を有効化できます。

POE-8M2

電気用品安全法により、遠隔操作に伴い感電・事故・傷害の発生する危険がある機器の遠隔操作は禁止されています。したがって、電気用品の中には、遠隔制御により感電、火災及び障害の生じる可能性があるものがありますので、そのような機器を、本装置のアウトレットに接続してはなりません。特に、電気ストーブや電熱器などを発生するものは、火災の原因となりますので絶対に接続しないでください。また、通信回線の故障などにより遠隔制御が行えなくなった場合でも、安全状態が維持されるように、遠隔制御可能な装置のみを接続してください。

上記の内容に同意します。

次へ

- 8) 「メンテナンスモード機器設定」画面が表示されます。

メンテナンスモード 機器設定

モデル名	POE-8M2
バージョン	0.05A.171212
MAC アドレス	00:09:EE:01:17:02
IP アドレス	192.168.10.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
DNS サーバーアドレス	
DHCP 機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
HTTP 機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTP ポート	80
Telnet 機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
Telnet ポート	23
通信速度	自動接続
IP フィルター機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

適用

- 9) IPアドレス欄にご利用になるLANに適切なIPアドレスを入力します。運用時にIPアドレスを固定にして利用する場合、「DHCP機能」を無効にチェックしたままで、IPアドレス欄にご利用になるLANに適切なIPアドレスを入力します。DHCPを利用して動的にIPアドレスを割り当てる場合は、「DHCP機能」を有効にチェックして「適用」をクリックします。

- 10) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

- 11) その他、「TELNET機能」など必要に応じて設定を行います。設定が終了しましたら、「適用」をクリックします。
- 12) 本体前面のDIPスイッチ3をOFFにします。(運用モードにします。)
- 13) 本体前面のRESETスイッチを押します。
- 14) Webブラウザを閉じます。
- 15) 設定用PCのIPアドレスを元に戻します。

<p>注意 設定後は、必ず「適用」をクリックし、「RESETスイッチ」を押してください。「RESETスイッチ」を押さないと設定が反映されません。</p>
--

2. 初期化の方法

本装置を初期化して出荷状態に戻します。

(まだ電源コードをコンセントに接続しないでください。)

- 1) 本体前面のDIPスイッチ1と3のみON（下）にします。
- 2) 電源コードをコンセントに接続し、電源を供給します。
- 3) 本体前面のLINK LEDが5秒間点灯します。
点灯中に本体前面のRESETスイッチを1秒程度、押します。
- 4) 初期化が成功するとLINKランプとACTランプが点灯します。
- 5) RESETスイッチを押す前にLINKランプが消灯してしまった場合は一旦電源コードを抜き、電源を供給からやり直してください。
- 6) 初期化後は、DIPスイッチ3のみON（下）にし、再度電源を供給してからご使用ください。
- 7) 初期化後は再度、使用条件の確認と同意が必要になりますので、「第3章 初期設定」から実行してください。

注意 初期化中は本体の電源を切らないで下さい。

第4章

WEBブラウザ での設定, 制御

1. ログイン

[1] IPアドレスを固定にして利用する場合

インターネットでアクセスする場合は、通信機器の設定が必要です。通信機器の設定などは通信機器のマニュアルに従ってください。

(PROXY経由ではご利用になれません)

注意 ブラウザはJavaScriptとフレームに対応している必要があります。半角記号の“?”、“=”、“%”、“&”、“,(カンマ)”、“(ダブルクォーテーション)”は入力しないで下さい。

Internet Explorerはver.11以上に対応しています。

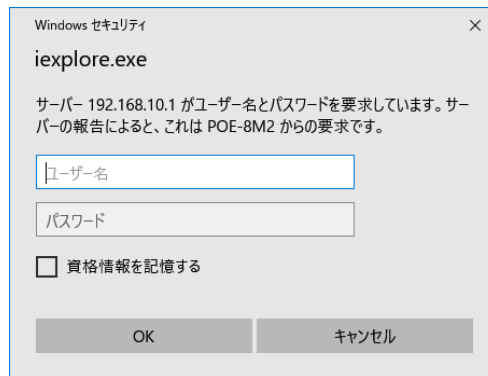
1) Webブラウザを起動し、本装置に設定されたIPアドレスを指定してアクセスします。

例 IPアドレス : 192.168.10.1

HTTPポート番号「80」デフォルトの場合 : http://192.168.10.1

HTTPポート番号「500」に設定した場合 : http://192.168.10.1 : 500

2) ブラウザ依存のユーザー名/パスワード入力用のポップアップ画面が表示されます。



注意 ブラウザによっては、ポップアップ画面がアドレス入力画面の裏に隠れている場合があります。

3) ユーザーIDとパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。

ユーザーID : admin (デフォルト)
パスワード : magic (デフォルト)

4) 簡易情報表示画面が表示されます。

The screenshot shows the 'PoE-8M2' web interface. The main content area is titled '簡易状態表示' (Simple Status Display). It contains three main sections:

- 機器情報** (Device Information):

機器名称	Noname
設置場所	Nowhere
- PoE対象状態** (PoE Target Status):

PoeDev1	PoeDev2	PoeDev3	PoeDev4
1 不明	2 無効	3 無効	4 無効
PoeDev5	PoeDev6	PoeDev7	PoeDev8
5 無効	6 無効	7 無効	8 無効
- アウトレット状態** (Outlet Status):

No.	名称	設定	状態	電源
1	Outlet1			ON
2	Outlet2			ON

At the bottom left, there is a user login box with the text: admin, 192.168.1.129, admin. Below it is a 'ログアウト' (Logout) button. The footer text is 'Meikyo Electric Co., Ltd.'

注意

簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。

電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。ただし、Ident, Supervisor権限ではログインすることが可能です。(ユーザーアカウントの設定については、「第4章 Webブラウザでの設定, 制御」の「セキュリティ設定」をご確認ください。) スマートフォンでご使用の場合、「横向き」が標準仕様となります。(「縦向き」でご使用になると、横スクロールの必要が生じます。)

[2] RPCサーチソフトを利用する場合

RPCサーチソフトを利用すれば同一セグメント上の本装置を検索し接続することができます。DHCP機能を利用した本装置を検索し接続するのに役立ちます。RPCサーチソフトは弊社ホームページ (<https://www.meikyo.co.jp/archive/>) よりをダウンロードしてください。

設定用PCと本装置とは、DHCPサーバーの存在するLANに接続します。

- 1) RPCサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリックします。
- 2) 機器一覧にある本装置を選択し、「WEB接続」ボタンをクリックする。

No.	型番	IPアドレス	MACアドレス	バージョン	稼働時間	機器名称
1	POE-8M2	192.168.001.138	00:09:EE:01:17:02	0.05A 171212	00000 - 00:00:05	Noname
2	PoE-8M2	192.168.001.059	00:09:EE:00:F9:3A	0.05A 171212	00000 - 00:08:59	Noname
3	RPC-M5CS	192.168.001.222	00:09:EE:01:45:F6	1.00B 170317	00000 - 07:14:52	RPC-M5CS
4	RSC-MT4H	192.168.001.217	00:09:EE:00:09:98	1.32A 170713	00008 - 03:59:33	Noname
5	RSC-MT4H	192.168.001.044	00:09:EE:00:4A:D1	1.30A 140818	00022 - 08:01:55	-
6	SE10-8A7B1	192.168.001.048	00:09:EE:01:20:24	1.10A 160108	00023 - 05:04:38	-
7	RSC-MT8FP	192.168.001.142	00:09:EE:00:81:31	1.30A 141006	00028 - 13:19:02	-
8	RPC-M4L	192.168.001.039	00:09:EE:00:31:3D	1.45A 140317	00820 - 22:38:06	-
9	RPC-M4L	192.168.001.102	00:09:EE:00:31:73	1.45A 140317	02599 - 12:13:01	-
10	RSC-MT8FP	192.168.001.062	00:09:EE:00:81:0D	1.30A 141006	03790 - 03:30:28	-
11	RPC-M4L	192.168.001.068	00:09:EE:00:31:41	1.45A 140317	06308 - 02:33:20	-
12	RPC-M5C	192.168.001.252	00:09:EE:00:97:F5	1.43B 130330	09101 - 08:24:48	-

- 3) ユーザー名(デフォルト: admin)とパスワード(デフォルト: magic)を入力します。

注意 :「WEB接続」の場合はブラウザ依存のユーザー名/パスワード入力用のポップアップ画面が表示されます。

- 4) 簡易情報表示画面が表示されます。

注意 LINKランプ/ACTランプ/PILOTランプが、いつまでも交互に点滅している時は、DHCPによるアドレス取得ができない状態です。DHCPサーバーを確認するか、IPアドレスを固定にご利用ください。

2. 設定項目

[1] システム設定

<1>基本設定

- 1) 画面左側設定項目の「システム設定」をクリックします。
基本設定画面が表示されます。

※特殊記号は利用不可

機器情報

機器名称	<input type="text" value="Norname"/>
設置場所	<input type="text" value="Nowhere"/>

PoE 機器設定

No.	PoE機器名称	制御	接続先番号	ポート番号
1	<input type="text" value="PoeDev1"/>	有効 ▾	1 ▾	<input type="text" value="23"/>
2	<input type="text" value="PoeDev2"/>	有効 ▾	2 ▾	<input type="text" value="22"/>
3	<input type="text" value="PoeDev3"/>	有効 ▾	3 ▾	<input type="text" value="21"/>
4	<input type="text" value="PoeDev4"/>	有効 ▾	4 ▾	<input type="text" value="20"/>
5	<input type="text" value="PoeDev5"/>	有効 ▾	1 ▾	<input type="text" value="19"/>
6	<input type="text" value="PoeDev6"/>	有効 ▾	2 ▾	<input type="text" value="18"/>
7	<input type="text" value="PoeDev7"/>	有効 ▾	3 ▾	<input type="text" value="17"/>
8	<input type="text" value="PoeDev8"/>	有効 ▾	4 ▾	<input type="text" value="24"/>

アウトレット設定

No.	アウトレット名称	OFF	REBOOT	ON	START
1	<input type="text" value="Outlet1"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="10"/>	<input type="text" value="1"/>	<input type="text" value="1"/>
2	<input type="text" value="Outlet2"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="10"/>	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="2"/>

全アウトレットREBOOT時間 (秒)

OFFを「-1」にするとOFF操作を使用不可にします。
ONを「-1」にすると全アウトレットON時、電源出力しません。
STARTを「-1」にすると自動で電源出力を開始しません。

アウトレット連動設定

No.	アウトレット連動
1	<input type="text" value="-"/> ▾
2	<input type="text" value="-"/> ▾

フロントパネル設定

LED 状態 有効 無効

(1) 機器設定

機器に関する設定をします。

「機器名称」：機器名称を設定します。(全角10文字, 半角20文字以内)

「設置場所」：設置場所を設定します。(全角31文字, 半角63文字以内)

(2) PoE機器設定

PoEハブに接続された受電デバイスに関する設定をします。

「PoE機器名称」：受電デバイス名称を設定します。(全角10文字, 半角20文字以内)

「制御」：受電デバイスへの給電制御の有効/無効を設定します。

「接続先番号」：受電デバイスが接続されているPoEハブの番号を設定します。
(「PoEハブの番号」については「システム設定/詳細設定/PoE HUB接続」のページで設定します)

「ポート番号」：受電デバイスが接続されている, PoEハブのポート番号を設定します。

(3) アウトレット設定

「アウトレット名称」：個別アウトレットの名称を設定します。
(全角10文字, 半角20文字以内)

「OFF」

個別アウトレットの電源出力を停止する際のOFF遅延時間を設定します。

シャットダウンスクリプトを利用する場合は、スクリプトが動作してシャットダウンが終了するまでに必要とされる十分な時間を設定してください。

「-1」設定は、電源OFF操作を禁止にし、リブート操作のみ有効とします。ルーターやハブなど誤操作による電源OFFを避けたい場合に便利です。(電源切断により、ネットワークへアクセスできなくなるケースを回避します。)

遅延時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- 個別アウトレット制御のOFF操作
- 全アウトレット制御のOFF操作

デフォルト：0
設定可能値：-1 ~ 3600 (秒)

「-1」：アウトレット制御のOFF操作を使用不可にします。
リブート操作のみ可能です。

「0」：即座に電源出力を停止します。

「1~3600」：指定した時間遅延させた後、電源出力を停止します。

「REBOOT」

個別アウトレットの電源出力を停止してから開始するまでの時間を設定します。この設定により、接続された任意のデバイスに最適なリブート時間を確保できます。

再投入時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- 個別アウトレット制御のリブート操作
デフォルト：10
設定可能値：8 ~ 3600 (秒)

「ON」

「All Outlets」に対して「ON」ボタンを押した時に、個別アウトレットの電源出力を開始するまでの時間(秒数)を設定します。この設定により、指定した順番に、指定したタイミングで個別アウトレットの電源出力を開始させることができます。

遅延時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- 全アウトレット制御のON操作
- 全アウトレット制御のリブート操作（関連は「全アウトレットREBOOT時間」で）

デフォルト	: No.1-1 No.2-2
設定可能値	: -1 ~ 3600 (秒)
「-1」	: 自動で電源出力を開始しません。
「0」	: 即座に電源出力を開始します。
「1~3600」	: 指定した時間遅延させた後、電源出力を開始します。

「START」

起動時の電源出力を開始するまでの時間を設定します。

設定方法は前項目「ON」と同様です。

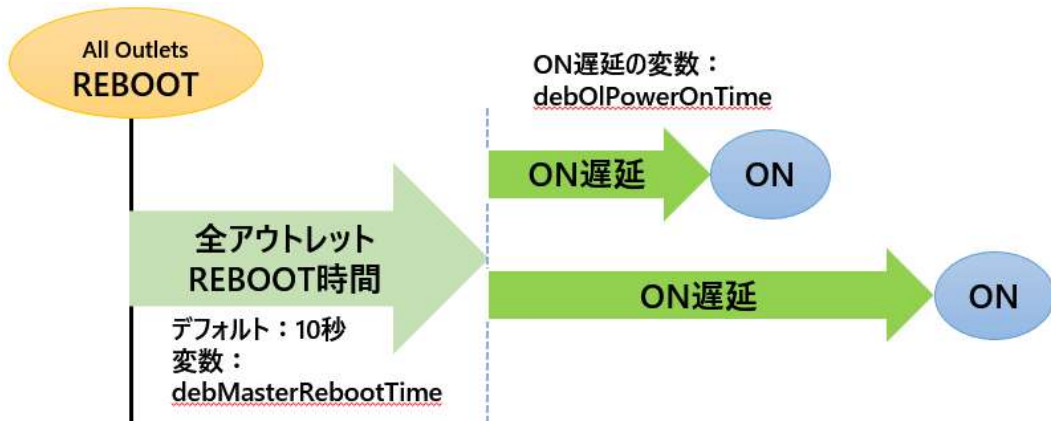
「全アウトレットREBOOT時間(秒)」

全アウトレットの電源出力を停止してから電源出力を開始するまでの時間を設定します。

再投入時間は以下の操作を行う際に適用されます。

注) 個別アウトレットの再投入時間は反映されません。

- 全アウトレット制御のリブート操作
- | | |
|-------|--------------|
| デフォルト | : 10 |
| 設定可能値 | : 8~3600 (秒) |



(4) アウトレット連動設定

選択したアウトレットの動作 [ON, OFF, REBOOT] に連動します。

(5) フロントパネル設定

「LED状態」

有効: 各LEDの状態表示が動作します。

無効: PILOTランプ, OUTLETランプの点滅動作はなくなり、点灯または消灯となります。

＜1＞-1 時刻設定

「システム設定」→基本設定の下の「時刻設定」をクリックします。

The screenshot shows a web-based configuration interface for time settings. At the top, there is a breadcrumb trail: システム設定 / 基本設定 / 時刻設定. Below this are three tabs: 基本設定, 詳細設定, and セキュリティ. The '時刻設定' tab is selected. The main content area is divided into three sections: 時刻内容, 時刻設定, and NTP 設定. The 時刻内容 section shows a table with 'PC時刻' (2017/12/12 16:12:08) and '機器時刻'. The 時刻設定 section has a 'PC時刻と同期' section with input fields for date (2017/12/12) and time (16:12:24), and a '同期' button. The NTP 設定 section has input fields for 'NTPサーバーアドレス' and 'NTPサーバー同期間隔' (6, with a note '(1=10分)'), and an '適用' button.

(1)時刻内容

PC内蔵時計の時刻と本装置の時刻を表示します。

(本装置には内蔵時計がないため、主電源がOFFになると機器時刻は消去されます)

(2)時刻設定

「同期」をクリックすると接続されたPCの時刻と同じ時刻に設定できます。

(3)NTP設定

「NTPサーバーアドレス」：NTPサーバーアドレスを入力します。

「NTPサーバー同期間隔」：NTPサーバーと何分おきに同期するかを設定します。

([入力数] × 10分, となります)

②詳細設定

レジストリ リスト

レジストリ リスト
Text リスト

機器制御

ファームウェア管理
ファームウェア更新

ファームウェア書き換え設定
有効 ▼

アウトレット連動送信 Wake On Lan

No.	アウトレット名称	MAC アドレス
1	Outlet1	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>
2	Outlet2	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>

仮想アウトレット設定 [Wake On Lan]

No.	仮想アウトレット名称	MAC アドレス	遅延(秒)
1	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>
2	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>
3	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>
4	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>
5	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>
6	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>
7	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>
8	<input type="text"/>	<input type="text" value="00:00:00:00:00:00"/>	<input type="text" value="0"/>

Wake On Lan

Wakeup 最大カウント数

Wakeup 間隔

(1)レジストリリスト

「Textリスト」をクリックすると、WEB画面上に全変数が表示されます。

(2)機器制御

「ファームウェア管理」：「ファームウェア更新」とクリックすると、現在のファームウェアを確認でき、明京サーバーから最新版にアップグレードすることができます。

現在のファーム情報

バージョン	0.05A.171212
モデル名	POE-8M2

バージョンアップ方法の選択

オンラインアップデート	開始
ローカルファイルの選択	ファイル選択

②-1 PoE HUB接続



(1)PoE HUB接続

「接続スクリプト」:「スクリプトn 編集」(n: 1~4)

「スクリプト1」には、パナソニックESネットワークス株式会社製MNOシリーズPoEハブ用のスクリプトが入っています。

「スクリプト2~4」はデフォルトではスクリプトファイルが入っていません。他社製PoEハブ用のスクリプトを読み込んで使用していただくことができます。

(スクリプト関数に関しては第10章をご覧ください)

PoE HUB設定		
1	名称	PoeHub1
	IPアドレス	
	TELNETポート	23
	ログインID	manager
	パスワード	manager
	スクリプト番号	1
	給電有効コマンド	no peth shutdown
	給電無効コマンド	peth shutdown
	状態参照コマンド	show peth-port
2	名称	PoeHub2
	IPアドレス	
	TELNETポート	23
	ログインID	
	パスワード	
	スクリプト番号	1
	給電有効コマンド	
	給電無効コマンド	
	状態参照コマンド	
3	名称	PoeHub3
	IPアドレス	

状態取得間隔	5 分
リブートOFF/ON間隔	10 秒
設定状態確認時間	5 秒
設定強制確認時間	15 秒

(2)PoE HUB設定

- 「名称」 : PoEハブの名称を設定します。(全角10文字, 半角20文字以内)
- 「IPアドレス」 : PoEハブのIPアドレスを設定します。
- 「TELNETポート」 : 23 (デフォルト)
- 「ログインID」 : 最大半角16文字
- 「パスワード」 : 最大半角16文字
- 「スクリプト番号」 : 1 (デフォルト)
- 「給電有効コマンド」「給電無効コマンド」「状態参照コマンド」(半角32文字以内)
 ハブに投げるコマンド列を定義
 (ハブ1にはパナソニックESネットワークス株式会社製MNOシリーズPoEハブ用コマンドがデフォルトでセットされています。)
- 「状態取得間隔」 : PoEハブに接続されている受電デバイスの状態を取得する間隔を設定します。(デフォルト: 5分)
- 「リブートOFF/ON間隔」 : 受電デバイスに対して「REBOOT」コマンドを発した時, OFFになってからONになるまでの間隔を設定します。(デフォルト: 10秒)
- 「設定状態確認時間」 : 受電デバイスに対して「ON・OFF・REBOOT」コマンドを発してからその状態を確認するまでの遅延時間を設定します。(デフォルト: 5秒)
- 「設定強制確認時間」 : 設定状態確認時間を過ぎてても, 他に実行コマンドがキューイングされていて状態確認をする間がないときに強制的に確認を実行するまでの時間。(デフォルト: 15秒)

③-1 フィルター

IP フィルター設定	
IP フィルター機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
アドレス1	<input type="text" value="192.168.10.0"/>
アドレス2	<input type="text"/>
アドレス3	<input type="text"/>
アドレス4	<input type="text"/>
アドレス5	<input type="text"/>
アドレス6	<input type="text"/>
アドレス7	<input type="text"/>
アドレス8	<input type="text"/>
アドレス9	<input type="text"/>
アドレス10	<input type="text"/>

Ident / Control ユーザー 表示設定	
詳細状態表示	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
仮想アウトレット制御	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
電源制御 ON ボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
電源制御 OFF ボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
電源制御 REBOOT ボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
アウトレット1 関連	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
アウトレット2 関連	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
全アウトレット制御ボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示

(1)IPフィルター設定

① IPフィルター設定

IPフィルター機能 : 有効 無効
アドレス : 192.168.10.0 (デフォルト)
 (最大10アドレス)

登録するアドレスは、最後のビットを0にします。

アドレス1のデフォルト値 [192.168.10.0] ですと、

192.168.10.1~192.168.10.254からのみ接続可能となります。

(0に設定した部分は、あらゆる数値をとれる、ということになります)

なお、フィルターの範囲を「ある値から別の値まで」のように細かに設定するためには、IPフィルターのマスク設定を変更する必要があります。

変数名と設定方法は以下のとおりです。

IPフィルターアドレスの変数名 [ipFilterAddr]

IPフィルターマスクの変数名 [ipFilterMask]

IPフィルター機能はビット単位のマスク機能です。ですので2進法を使用して値の範囲を指定することになります。

基本的にマスクを「255」にすると「必ずその値でなければならない」となり、「0」にすると「その部分はあらゆる数値をとれる」となります。

ですので、ipFilterMask=255.255.255.0

ipFilterAddr=192.168.10.0 とすると、

「192.168.10.1~192.168.10.254」から接続可能になります。

例1 「192.168.10.1~192.168.10.150」まで接続可能にしたい場合

まず「192.168.10.」の部分は「必ずその値であるべき」なのでマスクは「255.255.255.」で始めます。最後の一杯に関して2進法を使って設定していきます。

「150」を2進法で表すと「10010110」となります。つまり、128+16+4+2です。【2進法の「1」に注目しています。】

このとき「128」、「128+16=144」、「128+16+4=148」、「128+16+4+2=150」の4つを区切りとして考えます。

【ipFilterMaskルール】

2進法にして「0」→「0,1両方可」、「1」→「固定部分」とマスクをかける。

	x=0,1どちらでも 網掛付=固定	ipFilterMask 2進法	ipFilterAddr 2進法		ipFilterMask 10進法	ipFilterAddr 10進法
1~127	0xxxxxxx	1 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0	→	128	0
128~143	1000xxxx	1 1 1 1 0 0 0 0	1 0 0 0 0 0 0 0	→	240	128
144~147	100100xx	1 1 1 1 1 0 0 0	1 0 0 1 0 0 0 0	→	252	144
148~149	1001010x	1 1 1 1 1 1 0 0	1 0 0 1 0 1 0 0	→	254	148
150	10010110	1 1 1 1 1 1 1 1	1 0 0 1 0 1 1 0	→	255	150

となるので、TELNETで、次の変数を書き込みます。

(変数なので、初めに「.(ピリオド)」が必要です。)(区切りに「,(コンマ)」を使っています)

.ipFilterMask=255.255.255.128,255.255.255.240,255.255.255.252,255.255.255.254,255.255.255.255

.ipFilterAddr=192.168.10.0,192.168.10.128,192.168.10.144,192.168.10.148,192.168.10.150

この後「>」の後に「write」を入力してEnterを押すことで設定が書き込まれます。

例2 「192.168.10.151~192.168.10.254」まで接続可能にしたい場合

これも最後の一杯だけ考えます。

「151」を2進法で表すと「10010111」となります。この数字から255を目指すので、今度は2進法の「0」に注目すると、あと「8+32+64」あれば255になります。(IPアドレスで255は使用しません。ただフィルターのマスクを考えるにあたっては便宜上255をイメージし

ます)

このとき「151」, 「151+8=159」, 「151+8+32=191」, 「151+8+32+64=255」
の4つで考えます。

【ipFilterMaskルール】

2進法にして「0」→「0,1両方可」, 「1」→「固定部分」とマスクをかける。

	x=0,1どちらでも 網掛け=固定	ipFilterMask 2進法	ipFilterAddr 2進法		ipFilterMask 10進法	ipFilterAddr 10進法
151	10010111	1 1 1 1 1 1 1 1	1 0 0 1 0 1 1 1	→	255	151
152~159	10011xxx	1 1 1 1 1 0 0 0	1 0 0 1 1 0 0 0	→	248	152
160~191	101xxxxx	1 1 1 0 0 0 0 0	1 0 1 0 0 0 0 0	→	224	160
192~255	11xxxxxx	1 1 0 0 0 0 0 0	1 1 0 0 0 0 0 0	→	192	192

となるので、TELNETで、次の変数を書き込みます。

(変数なので、初めに「.(ピリオド)」が必要です。)(区切りに「,(コンマ)」を使っています)

.ipFilterMask=255.255.255.255,255.255.255.248,255.255.255.224,255.255.255.192

.ipFilterAddr=192.168.10.151,192.168.10.152,192.168.10.160,192.168.10.192

この後「>」の後に「write」を入力してEnterを押すことで設定が書き込まれます。

これで「192.168.10.151~192.168.10.254」だけが接続できるようになりました。

(2)Ident/Controlユーザー表示設定

- 監視状態表示 : 隠す 表示
- 仮想アウトレット制御 : 隠す 表示
- 電源ONボタン : 隠す 表示
- 電源OFFボタン : 隠す 表示
- 電源リブートボタン : 隠す 表示
- アウトレット1-2関連 : 隠す 表示
- 全アウトレット制御ボタン : 隠す 表示

「隠す」にチェックするとIdent/Control権限でログインした時、各表示を隠すことが出来ます。

[2] ネットワーク設定

半角英数のみ

ネットワーク基本設定	
IP アドレス	192.168.1.138
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DNS サーバアドレス	192.168.1.1
DHCP	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
HTTP	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTP Port	80
HTTP 認証方式	Digest
Realm 名	PoE-8M2
Nonce 時間 (秒)	180
TELNET	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
TELNET Port	23
リモート TELNET IP	
リモート TELNET ポート	23
通信速度	自動接続
RPCサーチ	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
自動ログアウト	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
html 表示設定	
ログインタイムアウト (秒)	600
自動ページ更新設定	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
自動ページ更新時間 (秒)	30
ダイレクトWEBコマンド設定	
ダイレクトWEBコマンド機能 [?]	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

<1>基本設定

(1) ネットワーク基本設定

IPアドレス	デフォルト	: 192.168.10.1
サブネットマスク	デフォルト	: 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	デフォルト	: 0.0.0.0
DNSサーバアドレス	デフォルト	: 0.0.0.0
DHCP機能	デフォルト	: 無効
HTTP機能	デフォルト	: 有効
HTTP Port	デフォルト	: 80
HTTP認証方式	デフォルト	: Digest
認証領域(realms) 名称	デフォルト	: PoE8M2 (半角20文字以内)
nonce有効時間	デフォルト	: 180 (秒) 設定可能値 30 ~30000

TELNET	デフォルト	:	無効
TELNETポート	デフォルト	:	23
TELNET中継先IP	デフォルト	:	0.0.0.0
TELNET中継先ポート	デフォルト	:	23
通信速度	デフォルト	:	自動接続
RPCサーチ	デフォルト	:	有効
自動ログアウト	デフォルト	:	有効

注意

HTTP認証を「none」に設定するとブラウザでアクセス時にログイン画面が表示されます。
「Basic」または「Digest」に設定するとブラウザ依存のポップアップ画面にIDとパスワードを入力する方式になります。

外部のネットワークから接続するため、IPアドレスを固定にしてルーターのポートフォワーディング機能を利用する場合は、DHCPを無効にしてください。

注意

DHCP利用中、IPアドレスの取り直しが行われると本装置は自動的にCPURESETを行います。

(2)html表示設定

ログインタイムアウト	:	自動ログアウトまでの時間を設定します。 デフォルト : 600 設定可能値 : 30 ~ 30000 (秒)
自動ページ更新設定	:	デフォルト 無効
自動ページ更新時間	:	WEBと電源制御画面の自動更新間隔時間を設定します。 デフォルト : 30 (秒)

(3)ダイレクトWEBコマンド

ダイレクトWEBコマンド : デフォルト:無効

注意

ダイレクトWEBコマンドについては「第6章 その他の制御」の「5. WEBコマンドからの制御」をご確認ください。

②詳細設定



(1) ネットワークテスト

「送信テスト」をクリックすると、瘦身テスト画面に移動します。



(1)-1 Wake On LAN送信テスト

設定されているMACアドレスにマジックパケットを送信できます。

(1)-2 テストメール

「通知先」に登録しているメールアドレスにテストメールを送信します。
何らかの不具合が生じた場合「エラーメッセージ」が表示されます。
「クリア」を押すとエラーメッセージがクリアされます。

(1)-3 Ping送信テスト

「対象IPアドレス」に入力したIPアドレスに対してICMPを送信し、その結果を表示します。

① [送信] をクリックします。

②測定中は「測定中」と表示されます。

③測定結果が表示されます。

正常 : Reply from xxx.xxx.xxx.xxx --- time=yyms

xxx.xxx.xxx.xxx : 測定先アドレス

yyy : 応答時間(ミリ秒)

異常 : Request timed out. 応答が異常時

異常 : Domain name not found. ドメイン名が存在しない

基本 SNMP 設定	
SET GET 設定	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
GET Community Name	<input type="text" value="public"/>
SET Community Name	<input type="text" value="public"/>
TRAP Community Name	<input type="text" value="public"/>
Manager Trap	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
Authentication Trap	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
Trap IP アドレス1	<input type="text"/>
Trap IP アドレス2	<input type="text"/>
Trap IP アドレス3	<input type="text"/>
SNMP フィルター設定	
SNMP フィルター機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
フィルター IP アドレス	フィルターマスク
1	<input type="text" value="255.255.255.255"/>
2	<input type="text" value="255.255.255.255"/>
3	<input type="text" value="255.255.255.255"/>
4	<input type="text" value="255.255.255.255"/>

(2)基本SNMP設定

SETGET設定		:	有効 無効
GET Community Name	デフォルト	:	public (全角10文字 半角20文字以内)
SET Community Name	デフォルト	:	public (全角10文字 半角20文字以内)
TRAP Community Name	デフォルト	:	public (全角10文字 半角20文字以内)
Manager Trap		:	有効 無効
AuthenticationTrap		:	有効 無効
Trap IPアドレス1~8	デフォルト	:	0.0.0.0 (最大8 IPアドレス)

(3)SNMPフィルター設定

SNMPフィルター機能		:	有効 無効
フィルターIPアドレス	デフォルト	:	0.0.0.0
フィルターマスク	デフォルト	:	255.255.255.255 (最大10アドレス)

状態通知機能		
状態通知機能		無効
1	IP アドレス	
	ポート	5000
2	IP アドレス	
	ポート	5000
3	IP アドレス	
	ポート	5000
	IP アドレス	

(4)状態通知機能

状態通知機能	:	無効	SYSLOG
	:	MPMP	RPC-EYE v3
通知先 IPアドレス1-3	デフォルト	:	0.0.0.0
通知先 ポート1-3	デフォルト	:	5000
送信間隔(秒)	デフォルト	:	300

注意 状態通知機能については「第9章 ネットワーク稼動監視」をご確認ください。

子機側一斉電源制御		
グループ設定		Disabled
ホスト側 MAC アドレス指定		00:00:00:00:00:00
アウトレット連動一斉制御送信		
	制御	動作
1	指定無し	無動作
2	指定無し	無動作

(5)子機側一斉電源制御

グループ設定	:	Disabled/Group1~8
ホスト側MACアドレス指定	:	

一斉電源制御について

一斉電源制御機能とは、最大8グループに分けられた複数の本装置を、グループ単位に制御する機能のことです。ブロードキャストパケットを利用しています。一斉電源制御受付では、本装置をどのグループにするかを設定します。

制御する側の機器のMACアドレスを「ホスト側MACアドレス制御」に入力してください。

○一斉電源制御を有効にするには「CPUリセット」が必要です。

○一斉電源制御が有効な場合、電源制御可能な他のユーザーはログインすることが出来ませ

ん。ただし、Supervisor権限でのログインは可能です。

注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPUリセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

「一斉電源制御」状態を解除するには、TELNETもしくはシリアルで接続し、Supervisor権限でログインします。「.broadGroup=0」と入力し「write」で書き込みます。その後、「cpureset」と入力しEnterキーを押すことで通常のログインができるようになります。

③メール設定

メールサーバー設定	
ユーザー名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
メールアドレス	<input type="text"/>
受信サーバー	<input type="text"/>
受信ポート	110
送信サーバー	<input type="text"/>
送信ポート	25
ログアウト時間(分)	10
メール確認間隔(分)	3
再接続時間(分)	10
形式	<input type="radio"/> IMAP <input checked="" type="radio"/> POP3
SMTP Auth	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
	<input checked="" type="checkbox"/> CRAM-MD5
	<input checked="" type="checkbox"/> LOGIN
	<input checked="" type="checkbox"/> PLAIN
IMAP Auth	<input checked="" type="checkbox"/> CRAM-MD5
	<input checked="" type="checkbox"/> LOGIN
APOP	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

メール制御設定	
メール制御コマンド[?]	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
メール制御ユーザー名	<input type="text"/>
メール制御パスワード	<input type="password"/>
送信メール 件名	<input type="text" value="機器名称"/>
送信メール 本文1行目	日時又は積算時間
送信メール 本文2行目	<input type="text" value="設置場所"/>
送信メール 本文3行目	<input type="text" value="IPアドレス"/>
送信メール 本文4行目	<input type="text" value="MACアドレス"/>
送信メール 本文5行目	<input type="text" value="ユーザー任意1"/>
送信メール 本文6行目	<input type="text" value="イベント内容"/>
送信メール 本文7行目	<input type="text" value="表示無し"/>
送信メール 本文8行目	<input type="text" value="表示無し"/>
ユーザー任意1	¥r¥n
ユーザー任意2	<input type="text"/>
ユーザー任意3	<input type="text"/>

通知先設定		
No.	種類	通知先アドレス
アドレス1	TO	<input type="text"/>
アドレス2	TO	<input type="text"/>
アドレス3	TO	<input type="text"/>
アドレス4	TO	<input type="text"/>
アドレス5	TO	<input type="text"/>
アドレス6	TO	<input type="text"/>
アドレス7	TO	<input type="text"/>
アドレス8	TO	<input type="text"/>

送信条件フラグ								
No.	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8
アドレス1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス7	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス8	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ログ送信回数	<input type="text" value="0"/>							

F1 PING F2 F3 スケジュール F4
F5 F6 F7 ハートビート F8 InfoOver

メールサーバーエラーメッセージ	
エラーメッセージ	
<input type="text"/>	クリア <input type="checkbox"/>

(1)メールサーバー設定

ユーザー名、パスワード、メールアドレス、受信サーバー名、受信ポート、送信サーバー名、送信ポートはプロバイダからの資料に基づき設定します。

ログアウト時間（分） デフォルト : 10
メール確認間隔（分） デフォルト : 3
再接続間隔（秒） デフォルト : 10

（変数mailRetryCountで設定した回数送信します。デフォルト：3回）

形式 [IMAP] [POP3] を選択
SMTP Auth : 認証方法を選択
 [CRAM-MD5] [LOGIN]
 [PLAIN]
IMAP Auth : 認証方法を選択
 [CRAM-MD5] [LOGIN]
APOP利用 : 有効 無効

(2)メール制御設定

メール制御コマンド : [有効] [無効]
メール制御ユーザー名 : 半角英数字63文字以内
メール制御パスワード : 半角英数字63文字以内
 [表示無し] [機器名称] [設置場所] [IPアドレス]
 [MACアドレス] [イベント内容] [ユーザー任意
 1～3] ……(*)より選択します。
送信メール 件名 日時又は積算時間
送信メール 本文1行目 : 上記(*)9点から選択
送信メール 本文2行目 : 上記(*)9点から選択
送信メール 本文3行目 : 上記(*)9点から選択
送信メール 本文4行目 : 上記(*)9点から選択
送信メール 本文5行目 : 上記(*)9点から選択
送信メール 本文6行目 : 上記(*)9点から選択
送信メール 本文7行目 : 上記(*)9点から選択
送信メール 本文8行目 : 上記(*)9点から選択
ユーザー任意1～3 : 任意のメール通知文を設定
 (全角21文字, 半角43文字以内)

(3)通知先設定

通知先アドレス

通知するメールアドレス、それぞれ「TO/CC/BCC」を設定します。
最大8件設定できます。

(4)送信条件フラグ

送信条件フラグ

4種類（[PING] [スケジュール] [ハートビート] [InfoOver]）から選択できます。
チェックしたフラグに連動してメールが送信されます。たとえば、[PING] では死活
監視が [異常] または [回復] に変化した時にメールを送信します。

ログ送信回数 : 設定した数だけログが更新されると通知先アドレスにログを送信します。
(MAX:20) (0の時は送信しません。)

(5)メールサーバーエラーメッセージ

メールに失敗したエラー情報を表示します。

クリアにチェックして [適用] をクリックすると消去できます。

<メールサーバーのチェックは「ネットワーク設定」→「詳細設定」→「ネットワークテスト」の「送信テスト」のところからできます。>

注意

[適用] ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、[CPUリセット] ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

メール送信のみの利用でPOP/IMAP認証を行わない場合でも、ユーザー名、パスワードは必要です。ダミーデータを設定してください。

設定したメールアドレスのメールサーバー内のメールは、メールチェック間隔でメールサーバー内のメールをチェックした後、削除されます。

[3] 監視設定

<1>Ping監視

Ping 監視設定					
	監視先アドレス	DG	送信	無答	対象
1	1 192.168.1.222	<input type="checkbox"/>	10	10	1
	2	<input type="checkbox"/>			
	3	<input type="checkbox"/>	動作	回数	間隔
	4	<input type="checkbox"/>	Reboot	5	5

	監視先アドレス	DG	送信	無答	対象
2	1	<input type="checkbox"/>		3	1
	2	<input type="checkbox"/>			
	3	<input type="checkbox"/>	動作	回数	間隔
	4	<input type="checkbox"/>	無動作	5	5

PING 送信間隔 (分)	5
死活監視レポートによる警告 (回)	12

回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限 (回)	
1 0	2 0

(1)Ping監視設定

- ① 監視先アドレス： 監視するIPアドレスまたはドメイン名を設定します。
各アウトレットに最大4ヶ所設定できます。
例 IPアドレス : 192.168.0.1
例 ドメイン名 : www.meikyo.co.jp
- ② DG： チェックでデフォルトゲートウェイを監視先に指定します。
- ③ 送信： 判断するための送信する回数を設定します。
設定可能値 : 1~100 (回)
- ④ 無答： 送信回数内で異常と判断する無応答回数を設定します。
設定可能値 : 1~100 (回)
- ⑤ 対象： 動作を実行させるための異常な監視先アドレスの数を設定します。
1~4
- ⑥ 動作： 動作を選択します。

無動作 : PING監視を行いません。
Logのみ : ログに記録します。電源は制御しません。
Reboot : ログに記録し、電源出力をOFF→ONします。

- ⑦ 回数 : 再Reboot回数を設定します。
- ⑧ 間隔 : 再Reboot間隔(分)を設定します。
*「再Reboot」について詳しくは次ページの【PING監視の仕組みと動作】
をご覧ください。
- ⑨ PING送信間隔 (分) : ICMPエコー要求パケットの送信間隔を設定します。
設定可能値 : 1~60
- ⑩ 死活監視リポートによる警告 (回) : デフォルト 12
PILOT LEDを点滅させる全アウトレットの死活監視リポート回数

(2)回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限 (回)

デフォルト 0 (無制限)

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

PING監視が正常な場合は監視番号の背景色が「緑色」に変わり、異常が発生している場合は「赤色」、回復中は「黄色」に変わります。

注意

応答のない状態が続いた場合は、約1時間ごとに設定された動作を実行します。再度、条件が成立しても動作は1時間に1度しか実行しません。
(詳しくは次ページをご覧ください。)

ハートビートが有効設定されている場合は、PING監視は実行されません。

【PING監視の仕組みと動作】

監視先アドレスに対して [PING送信間隔] で設定した間隔でICMPエコー要求パケットを1個送出し、応答を待ちます。

設定した[送信]回数内で設定した[無答]回数、無応答であるとその監視先を「異常」と判断します。

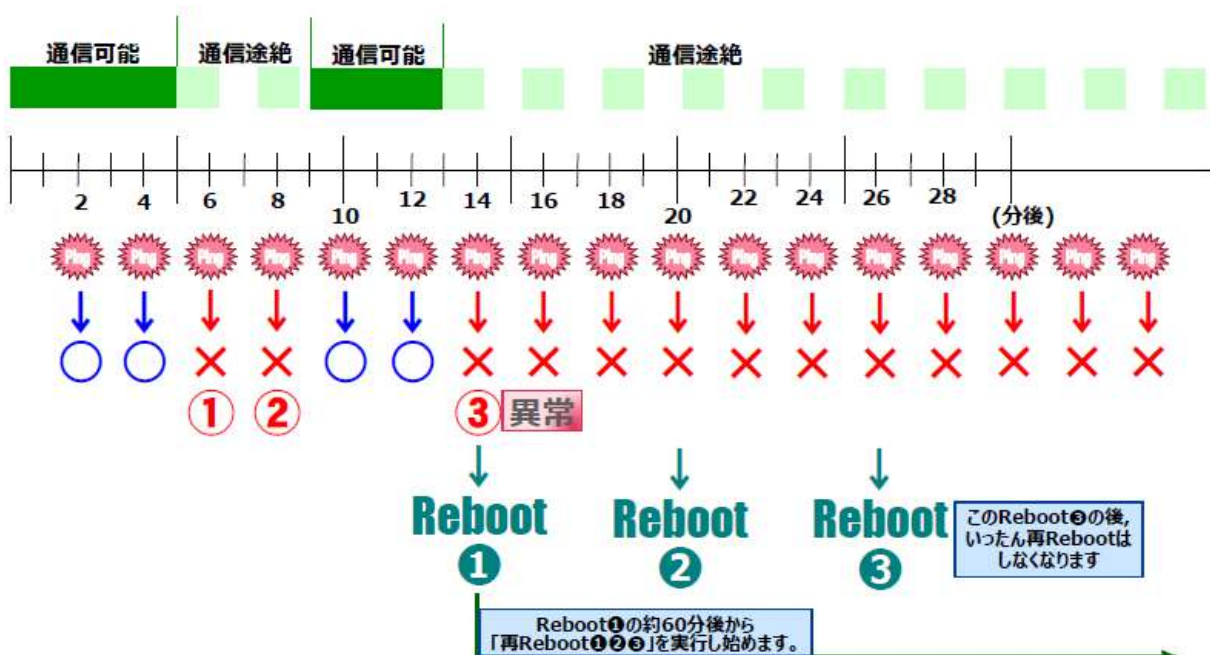
「異常」と判断された監視先が [対象] 数に達すると、そのアウトレットを異常と判定し、設定した[動作]を実行します。

[動作]が[Reboot]の場合、「再Reboot間隔(分)」ごとに「再Reboot回数」だけリブートを繰り返します。

- (例) 「PING送信間隔」を「2(分)」,
「死活監視レポートによる警告」を「5(回)」,
「送信」を「5(回)」,
「無答」を「3(回)」,
「動作」を「Reboot」,
「回数」を「3(回)」,
「間隔」を「6(分)」に設定した場合。

監視先アドレス	DG	送信	無答	対象
1 192.168.1.xx2	<input type="checkbox"/>	5	3	1
2	<input type="checkbox"/>			
3	<input type="checkbox"/>			
4	<input type="checkbox"/>	Reboot	3	6

PING 送信間隔 (分)	2
死活監視レポートによる警告 (回)	5



(次の「再Reboot②」で5回目のレポートとなるため、そこからPILOT LEDが点滅します)

〈1〉-1 PoE Ping監視

受電デバイスにIPアドレスが設定されている場合、そのIPアドレスにPINGを送信して監視し、異常を検知したときにはレポートを行うことができます。

本装置では8個の受電デバイスに対してPING監視を行うことができます。

PoE Ping 監視設定				
機器名称		送信	無答	
1	PoeDev1	<input type="text" value="3"/>	<input type="text" value="2"/>	
	監視先アドレス	動作	回数	間隔
	<input type="text" value="192.168.1.222"/>	Reboot ▾	<input type="text" value="1"/>	<input type="text" value="1"/>
機器名称		送信	無答	
2	PoeDev2	<input type="text" value="10"/>	<input type="text" value="10"/>	
	監視先アドレス	動作	回数	間隔
	<input type="text"/>	無動作 ▾	<input type="text" value="1"/>	<input type="text" value="1"/>
機器名称		送信	無答	
		<input type="text"/>	<input type="text"/>	

(1) PoE Ping監視設定

機器名称 : 設定されている受電デバイスの名称を表示します。

送信 : PING監視送信回数を設定します。

無答 : PING監視無応答回数を設定します。

監視先アドレス : 受電デバイスに割り当てられているIPアドレスを入力します。

動作 : PING監視によって「異常」と判断された時に実行する動作を指定します。
[無動作] [Logのみ] [Reboot]

回数 : 再Reboot回数を設定します。

間隔 : 再Reboot間隔(分)を設定します。

注意

PINGの送信間隔は「PING監視」と同じ間隔になります。

受電デバイスへの「PoE PING監視」では「約1時間後の再レポート」は実行されません。

②メールサーバー

メールサーバー監視設定	
メールサーバー	
1	接続エラー回数 <input type="text" value="0"/> 動作 無動作 ▾
メールサーバー	
2	接続エラー回数 <input type="text" value="0"/> 動作 無動作 ▾
メールサーバー状態表示	
エラー回数	0
メールサーバー確認間隔 (分)	1

(1)メールサーバー監視設定

- 接続エラー回数 : メールサーバーを異常と判断する回数を設定します。
動作 : 無動作 : 監視を行いません。
Logのみ : ログに記録します。電源は制御しません。
Reboot : ログに記録し、電源出力をOFF→ONします。
動作はPING監視と共通の設定になります。

(2)メールサーバー状態表示

- メール受信サーバー接続障害回数 : メール受信サーバー接続障害回数を表示します。
メールチェック間隔 (分) : メールサーバーのチェック間隔
デフォルト 3分
(PING監視の送信間隔の設定が反映されます)

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意	メールサーバー監視を行う場合はメール受信サーバーの設定が必要になります。メールサーバー監視とPING監視の両方を設定すると、いずれかが異常になった時点で動作を実行します。
-----------	---

③ハートビート

(1)ハートビート設定

- | | |
|------------|---|
| ハートビート | : 有効/無効を切り替えます。 |
| 送信IPアドレス | : ハートビート packets が送られてくるIPアドレス
★空白はすべて packets を受け付ける |
| 受信ポート | : packets 待受ポート (デフォルト: 9100) |
| 送信ポート | : PC側(HB側)の送信ポート (デフォルト: 9100) |
| Reboot時間 | : アウトレットリブート後, packets 受信不可をチェックするまでの時間
(デフォルト: 30 設定可能値: 1~99(秒)) |
| リバース間隔 | : ハートビート packets を受ける間隔
(デフォルト: 8 設定可能値: 1~99(秒)) |
| タイムアウト最大回数 | : 動作を行うカウント
(デフォルト: 3 設定可能値: 1~99(回)) |
| 動作最大回数 | : リブートの場合の実行回数限度
(デフォルト: 3 設定可能値: 1~99(回)) |

●ハートビートを利用するには「ハートビート」を「有効」にし [適用] をクリックします。その後、「CPUリセット」を行う必要があります。

(2)監視条件設定

アウトレットごとの動作を選択します。

	パケットを受信	タイムアウト発生中
無動作	無変化	無変化
On	無変化	Onに変化
On追従	On→Off^	Off→On^
Off	無変化	Offに変化
Off追従	Off→On^	On→Off^
Reboot	無変化	Reboot

(3)ハートビートパケット状態

状態 : 待機中/タイムアウト発生中/パケットを受信

送信IPアドレス : ハートビートパケットが送られてきたIPアドレスを表示します。

タイムアウト回数 : 未受信カウントを表示します。

【ハートビートに必要なパケット形式】

UDPパケットのデータ “xxxxxHB” +CRLFの9文字を受け, “xxxxxACK” の8文字を返します。
(xxxxxは任意)

注意 ハートビートを実行する場合は、PING監視は実行することは出来ません
--

[4] スケジュール

スケジュールリスト						
No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
2	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
3	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
4	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
5	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
6	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
7	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
8	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
9	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
10	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
11	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
12	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
13	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
14	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
15	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
16	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
17	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
18	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
19	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
20	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作

※仮想アウトレットは、「OFF」または「Reboot」で動作しません。

本装置のスケジュールに関する設定をします。最大20件登録できます。

- 「有効」 : 設定したスケジュールの有効/無効
チェックしたNo.が有効になります。
- 「アウトレット」 : 制御するアウトレットNo.
[全アウトレット] [アウトレット1~2] [PoE接続機器1~8]
[全仮想アウトレット] [仮想アウトレット1~8]
- 「曜日」 : 実行する曜日 (毎日または指定曜日)
[全て] [日] [月] [火] [水] [木] [金] [土]
- 「時」 : 実行する時間 (入力可能値: 0~23)
- 「分」 : 実行する分 (入力可能値: 0~59)

「動作」 : 実行する動作
[無動作] [Reboot] [ON] [OFF] [メール]
(仮想アウトレットでは [ON] のみ有効)

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意

スケジュール設定を使う場合はNTPサーバーの設定が必要になります。
基本設定で設定してください。
NTPサーバーの接続に失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

[5] システム情報

本装置に設定された各項目の概要情報を一覧で確認できます。

基本システム情報	
機器名称	Noname
バージョン	0.07A.171218/HTM08PO.171215
モデル名称	PoE-8M2
アウトレット数	2
アウトレット1名称	Outlet1
アウトレット2名称	Outlet2
PoE接続名称1	PoeDev1
PoE接続名称2	PoeDev2
PoE接続名称3	PoeDev3
PoE接続名称4	PoeDev4
PoE接続名称5	PoeDev5
PoE接続名称6	PoeDev6
PoE接続名称7	PoeDev7
PoE接続名称8	PoeDev8
仮想アウトレット1名称	
仮想アウトレット2名称	
仮想アウトレット3名称	
仮想アウトレット4名称	
仮想アウトレット5名称	
仮想アウトレット6名称	
仮想アウトレット7名称	
仮想アウトレット8名称	
MACアドレス	00:09:EE:01:17:02
IPアドレス	192.168.1.138
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
機器内部時間	2017/12/19 13:33:26
NTPアドレス	time.google.com (OK)
HTTP機能	有効
HTTPポート	80
TELNET機能	有効
TELNETポート	23
LAN速度	100.0Mbps
DIP-SW	1:OFF 2:OFF 3:OFF 4:固定

[6] 簡易説明

本装置の簡易説明が確認できます。



E-mail又はWEBコマンド制御の説明
メールを利用して電源制御
WEBによるコマンドの送信方法

コマンドリスト一覧

オンラインヘルプ(internet接続)

[7] CPUリセット

本装置の設定変更を有効にします。



CPUリセット画面の「CPUリセット」をクリックします。

注意

CPUリセットを必要とする内容の場合、「設定項目」の「CPUリセット」の背景色が黄色になります。
「CPUリセット」をクリックすると設定した内容が有効になり、通信が切断されますが、アウトレットの状態は現状のまま保持されます。

3. 状態表示項目

[1]簡易情報表示

現在の受電デバイスの電源状態、本装置の電源情報を表示します。

機器情報							
機器名称	Noname						
設置場所	Nowhere						
PoE対象状態							
PoeDev1	PoeDev2	PoeDev3	PoeDev4				
1	ON	2	NONE	3	NONE	4	無効
PoeDev5	PoeDev6	PoeDev7	PoeDev8				
5	無効	6	無効	7	無効	8	無効
アウトレット状態							
No.	名称	設定	状態	電源			
1	Outlet1			ON			
2	Outlet2			ON			

注意 簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。

[2] 詳細情報表示

<1>電源詳細情報

機器情報				
機器名称	Noname			
設置場所	Nowhere			

アウトレット状態				
No.	名称	監視状態	実行回数	電源状態
1	Outlet1		0	ON
2	Outlet2		0	ON

監視設定内容				
No.	送信数	無応答	対象	動作
1	3	3	1	無動作
2	10	10	1	無動作

監視状態								
No.	対象1		対象2		対象3		対象4	
	状態	無応答	状態	無応答	状態	無応答	状態	無応答
1								
2								

PING 応答時間								
No.	対象1		対象2		対象3		対象4	
	応答時間	無応答	応答時間	無応答	応答時間	無応答	応答時間	無応答
1								
2								

ハートビート状態表示			
No.	動作	実行回数	バケット
1	無効	0	ハートビート無効
2	無効	0	

メールサーバー監視状態	
エラー回数	0

(1) 機器情報

- 機器名称 : 現在設定されている機器名称を表示します。
- 設置場所 : 現在設定されている設置場所名称を表示します。

(2) アウトレット状態

- 監視状態 : 「PING監視」および「メールサーバー監視」の判定結果を表示します。
正常: 異常な監視先が対象数未満, かつメールサーバー正常。
異常: 異常な監視先が対象数以上, あるいはメールサーバー異常。
回復中: 動作後, 異常な監視先が対象数未満だが, 異常な監視先が残っている。メールサーバーは正常。
- 実行回数 : PING監視とメールサーバー監視の実行された動作の回数を表示します。
- 電源状態 : 現在の電源状態を表示します。
(画面右上の更新ボタンをクリックすることで最新の表示になります)

(3) 監視設定内容

PING監視に関する情報を表示します。

- 送信数 : PING監視のICMPエコー要求送信回数設定値を表示します。
- 無応答 : PING監視の無応答回数を表示します。
- 対象 : PING監視の対象数設定値を表示します。
- 動作 : PING監視とメールサーバー監視の動作を表示します。

(4) 監視状態

- 状態 : アウトレットごとに各監視先の応答状態を表示します。
- 無応答 : ICMPエコー要求送信に対する無応答回数を表示します。

(5) PING応答時間

- 応答時間 : 監視先の応答時間を表示します。

(6) ハートビート状態表示

- 動作 : 動作状態を表示します。
- 実行回数 : 実行数を表示します。
- パケット状態 : パケット状態を表示します。

(7) メールサーバー監視状態

- エラー回数 : メールサーバーを異常と判断する回数を設定します。

②PoE詳細情報

機器情報	
機器名称	Noname
設置場所	Nowhere

PoE HUB最終状態		
No.	名称	内容
1	PoeHub1	(0) 正常
2	PoeHub2	(10) PoE HUBのIPアドレスの指定無し
3	PoeHub3	(10) PoE HUBのIPアドレスの指定無し
4	PoeHub4	(10) PoE HUBのIPアドレスの指定無し

PoE対象状態							
No.	名称	状態	実行	無応	ms	St	給電
1	PoeDev1	正常	0	0	1	0	更新
2	PoeDev2		0	0	0	0	NONE
3	PoeDev3		0	0	0	0	NONE
4	PoeDev4					0	無効
5	PoeDev5					0	無効
6	PoeDev6					0	無効
7	PoeDev7					0	無効
8	PoeDev8					0	無効

(1)機器情報

- 「機器名称」 : 現在設定されている機器名称を表示します。
「設置場所」 : 現在設定されている設置場所名称を表示します。

(2)PoE HUB最終状態

- 「名称」 : 現在設定されているPoEハブ名称を表示します。
「内容」 : 最後のコマンド実行結果を表示します。
★詳しくは「第10章2.」をご覧ください。

(3)PoE対象状態

- 「名称」 : 現在設定されている受電デバイスの名称を表示します。
「状態」 : 「PoE Ping監視」の判定結果を表示します。
[正常] [異常] [回復中]
「実行」 : 「PoE Ping監視」の実行された動作の回数を表示します。
「無応」 : 「PoE Ping監視」の無応答回数を表示します。
「ms」 : 「PoE Ping監視」での監視先の応答時間を表示します。
「St」 : 各受電デバイスの最後のコマンド実行結果を表示します。
「0」: 正常
その他の数字 : エラーコード
★詳しくは「第10章2.」をご覧ください。

「給電」

： 受電デバイスの給電状態を表示します。

「システム設定/基本設定/PoE機器設定」で「制御」を「無効」にしていると [無効] と表示されます。

「システム設定/基本設定/PoE機器設定」で「制御」を「有効」にすると [ON] [OFF] 状態が表示されます。

受電デバイスに対して給電制御コマンドを発して状態が変化し、その状態が取得できていない時には [更新] という表示になります。

「制御」が「有効」になっているポートに受電デバイスが接続されていない場合は [NONE] が表示されます。

③ イベントログ

通電してから現在までのイベントログを表示します。

「システム設定/基本設定/時刻設定」で「機器時刻」の設定をしていれば、日時がログに残されま
す。「機器時刻」が設定されていない時は「通電してからの秒数」が表示されています。

ログリスト

1	2017/12/19	15:50:52	ログ開始		
2	2017/12/19	15:50:53	NTPサーバー接続	15:50:53	
3	2017/12/19	15:50:55	WEBアクセス	192.168.1.129	
4	2017/12/19	15:50:57	POEスクリプト実行	POE Hub 1	
5	2017/12/19	15:51:56	WEBログイン	192.168.1.129	admin
6	2017/12/19	15:51:56	電源操作 (OFF)	アウトレット2	admin
7	2017/12/19	15:52:17	電源操作 (ON)	アウトレット2	admin
8	2017/12/19	15:55:56	POEスクリプト実行	POE Hub 1	
9	2017/12/19	15:56:14	UTY接続	192.168.1.83	
10	2017/12/19	15:56:14	UTYログイン	192.168.1.83	admin
11	2017/12/19	15:56:14	UTYログインせず切断	192.168.1.83	admin
12	2017/12/19	15:57:01	POE死活判定 (REBOOT)	POE Device 1	
13	2017/12/19	15:57:14	POEスクリプト実行	POE Hub 1, Dev. 1	
14	2017/12/19	15:57:22	POEスクリプト実行	POE Hub 1	
15	2017/12/19	16:00:57	POEスクリプト実行	POE Hub 1	
16	2017/12/19	16:03:01	POE正常/回復中	POE Device 1	
17	2017/12/19	16:03:05	POE操作 (給電OFF)	POE Device 1	admin
18	2017/12/19	16:03:07	POEスクリプト実行	POE Hub 1, Dev. 1	
19	2017/12/19	16:03:15	POEスクリプト実行	POE Hub 1	
20	2017/12/19	16:05:56	POEスクリプト実行	POE Hub 1	
21	2017/12/19	16:06:55	UTY接続	192.168.1.83	
22	2017/12/19	16:06:55	UTYログイン	192.168.1.83	admin
23	2017/12/19	16:06:55	UTYログインせず切断	192.168.1.83	admin
24	2017/12/19	16:08:29	UTY接続	192.168.1.83	
25	2017/12/19	16:08:29	UTYログイン	192.168.1.83	admin
26	2017/12/19	16:08:29	UTYログインせず切断	192.168.1.83	admin
27	2017/12/19	16:10:57	POEスクリプト実行	POE Hub 1	
28	2017/12/19	16:11:43	POE操作 (給電ON)	POE Device 1	admin
29	2017/12/19	16:11:46	POEスクリプト実行	POE Hub 1, Dev. 1	
30	2017/12/19	16:11:54	POEスクリプト実行	POE Hub 1	

表示領域	機器時刻
1 - 30 (総数 30)	2017/12/19 16:14:15

前ページ
次ページ
先頭ページ
最終ページ

Text表示
全ログクリア

- 前ページ : 前ページを表示します。
- 次ページ : 次ページを表示します。
- 先頭ページ : 先頭ページを表示します。
- 最終ページ : 最終ページを表示します。
- TEXT表示 : WEB画面にイベントログを表示します。
- 全ログクリア : ログを消去します。

注意 1ページは100項目単位で表示します。
最大10ページ、1000項目のログを表示可能です。

4. 電源制御

本装置に接続されたデバイスの電源制御をします。

[1]電源制御

機器情報			
機器名称	Noname		
設置場所	Nowhere		
アウトレット情報			
No.	名称	制御	電源状態
1	Outlet1	ON OFF Reboot	ON
2	Outlet2	ON OFF Reboot	ON
	All Outlets	ON OFF Reboot	

(1)アウトレット情報

「制御」

- 名称 : 設定されているアウトレット名称を表示します。
- ON : 電源出力を開始します。
- OFF : 電源出力を停止します。
- Reboot : 電源出力をOFF→ONします。

「All Outlets」

- ON : 全アウトレットの電源出力を開始します。
- OFF : 全アウトレットの電源出力を停止します。
- Reboot : 全アウトレットの電源出力をOFF→ONします。

「更新」をクリックすると最新の電源状態を取得します。

注意 電源制御画面は「ネットワーク設定」「基本設定」「html表示設定」で「自動ページ更新設定」を「無効」であっても「自動ページ更新時間(秒)」に基づき自動で更新されます。

[1]-1 PoE出力制御

機器情報

機器名称	Noname
設置場所	Nowhere

PoE 接続機器情報

PoE HUB 最新状態	更新
現在 0 個のコマンドが待機中です。	詳細

PoE 接続機器制御

No.	名称	制御	St	給電
1	PoeDev1	ON OFF Reboot	0	ON
2	PoeDev2		0	NONE
3	PoeDev3		0	NONE
4	PoeDev4		0	無効
5	PoeDev5		0	無効
6	PoeDev6		0	無効
7	PoeDev7		0	無効
8	PoeDev8		0	無効

(1)PoE接続機器情報

「更新」ボタンを押すことで、PoEハブの最新状態を取得することができます。

「現在__個のコマンドが待機中です。」の__部分の数値が更新されます。

★1回押すことで取得しようとします。何度も連続してボタンを押さないようにしてください。

「詳細」ボタンを押すと、「待機中コマンドリスト」の画面に切り替わり、待機中のコマンドを表示させることができます。

待機中コマンドリスト

1 18/01/09 17:03:40	PoE STATUS by Update
---------------------	----------------------

待機待ちコマンド数	機器時刻
1	2018/01/09 17:03:41

(2) PoE接続機器制御

- 「名称」 : 現在設定されている受電デバイス名称を表示します。
- 「制御」 : [ON] [OFF] [Reboot] コマンドが出せます。
受電デバイスが接続されていない時はコマンドボタンが表示されません。
- 「St」 : 正常であれば「0」
異常があればそのエラーコードが表示されます。
●数字をクリックするとエラー内容が表示されます。
- 「給電」 : 受電デバイスの給電状態を表示します。

(表示に関しては「第10章2.」参照)

[2] 仮想制御

仮想アウトレットとは、実際には存在しないアウトレットであり、関連付けされたMACアドレスにマジックパケットを送出して、WakeOnLan機能を実現するためのものです。

機器情報		
機器名称	Noname	
設置場所	Nowhere	
仮想アウトレット (WOL)		
No.	仮想アウトレット名称	WOL 送信
1		ON
2		ON
3		ON
4		ON
5		ON
6		ON
7		ON
8		ON
	全仮想アウトレット	ON

(1) 仮想アウトレット(WOL)

- 「仮想アウトレット名称」 : 現在設定されている仮想アウトレット名称を表示します。
- 「WOL送信」 : 指定の仮想アウトレットにマジックパケットを送出します。
- 「全仮想アウトレット」 : 全仮想アウトレットにマジックパケットを送出します。

[3] 一斉制御

電源制御	仮想制御	一斉制御
一斉制御コマンド		
グループ指定	Group 1 ▼	
制御	PowerON ▼	
送信		

(1) 一斉制御コマンド

- 「グループ指定」 : 制御するグループを選択します。
- 「制御」 : 実行する動作 [PowerON] [PowerOFF] [Reboot]
- 「送信」 : 一斉制御コマンドを送信します。

第5章 その他の設定

1. TELNETによる設定

[1]TELNETでの接続方法

- 1) 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したIPアドレスを以下のように指定し、本装置にアクセスします。

192.168.10.1の場合

IPアドレス : 192.168.10.1
TELNETポート番号 : 23

「telnet_192.168.10.1_23」

※_はスペースを表します。

- 2) プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

```
220 PoE8M2 (Noname) server ready
```

- 3) 任意のキーを入力します。IDとパスワードが要求されます。
- 4) ユーザーID（デフォルト：admin）とパスワード（デフォルト：magic）を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。

注意 ブラウザ接続時のIDとパスワードはTELNET接続時のIDとパスワードとは別になります。
デフォルトのままですとセキュリティホールになる危険があります。
コマンドにより変更して利用することをおすすめします。

電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法で新たにログインすることはできません。ただし、Supervisor権限ではログインすることが可能です。

[2] TELNETコマンドによる設定

- 1) 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したIPアドレスを指定し、TELNETで本装置にログインします。
【「telnet [IPアドレス]」と入力してください。】
- 2) コマンドや変数などを入力し<Enter>キーで実行します。
(IPアドレスなど一部の設定はCPUリセット後に反映されます。)

■ TELNET通信の設定関係コマンド

コマンド	内 容
LIST	全ての変数の値を表示します。
WRITE	変数の設定をFROMに書き込みます。
&SAVE	設定された変数の待避・復元ができるデータを出力します。
LOAD_BEGIN	設定データの読み込みを始めます。
LOAD_END	設定データの読み込みを終了します。
?変数名	変数の値を表示します。
変数名=値	変数を設定し、設定された変数を表示します。
CPURESET	CPUをリセットします。(電源状態は変化しません。)

※変数については「**■変数一覧表**」参照

■ 「&SAVE」コマンドについて

環境(変数全体)を一括して待避・復元するためのコマンドです。

「&SAVE」を実行すると、「LOAD_BEGIN」から始まり、変数設定コマンド、「LOAD_END」までをテキストデータとして出力します。このテキストデータをテキストドキュメントなどに設定データとして保存しTELNETで送信すると、保存された設定が復元されます。

TELNET用のパスワードなど、いくつかの変数は保存されません(※下記参照)のでご注意ください。

設定データをテキストエディタで変更して利用することもできます。

なお、「&SAVE」には、エコーバックがありません。

変数設定コマンドでは、エラーがあっても無くても表示しません。

長いコマンドは分割されます。(最後にハイフンがあると、次に継続することを意味します。)

ファイルからのコマンドを実行するときは、「promptMode」を0または1としてください。

※保存されないもの

- TELNET用のパスワード
- (Read Only) の変数

■ プロンプトやコマンドについて

TELNETからアクセスしたときは、コマンド入力のプロンプトが表示されます。プロンプト表示の有無または表示形式は、コマンドで指定します。

「?」だけのコマンドにより、ヘルプとしてコマンドの一覧を表示します。

どのコマンドでも最初に「&」をつけることによりエコーバックが無くなります。設定の取得、書き込みのときは、「promptMode」を0または1とします。

変数名	:	promptMode
値	:	0 (プロンプト表示無し)
	:	1 (「>」のプロンプト表示)
	:	2 (「 機器名 >」のプロンプト表示)

第6章 その他の制御

1. TELNET接続による制御

本装置はTELNETサーバープログラムへ接続して、遠隔から電源制御および状態取得ができます。セキュリティ制御の設定がされている場合はその制限内での操作となります。

[1]TELNET接続による制御

- 1) 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したIPアドレスを以下のように指定し、TELNETで本装置にログインします。

192.168.10.1の場合

IPアドレス	: 192.168.10.1
TELNETポート番号	: 23

「telnet_ 192.168.10.1 _23」

※_はスペースを表します。

- 2) プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

```
220 PoE8M2 (Noname) server ready
```

- 3) 任意のキーを入力します。IDとパスワードが要求されます。
- 4) ユーザーID (デフォルト: admin) とパスワード (デフォルト: magic) を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。
- 5) 制御コマンドを入力して、<Enter>キーで実行します。

注意 電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。
ただし、Supervisor権限ではログインすることが可能です。

■TELNET制御コマンド一覧表

制御コマンド	内 容																				
MPON	全アウトレットの電源出力開始																				
MPOF	全アウトレットの電源出力停止																				
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リブート）																				
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始 n=1~2																				
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止 n=1~2																				
PORn	指定されたアウトレットのリブート（電源リブート） n=1~2																				
PSRn	指定されたアウトレットの電源状態反転 n=1~2																				
MPONV	全仮想アウトレットにマジックパケットを送信する。																				
PONVx	(xは1~8) debWakeUpInterval後にマジックパケットを送信する。																				
OLSn	<p>死活監視状態の表示 n=1~2 nを省略すると全てのアウトレットを表示します。 コンマ区切りで表示。</p> <table border="0"> <tr> <td>Outlet No.</td> <td>アウトレット番号[1~2]</td> </tr> <tr> <td>Power</td> <td>電源状態[0:Off 1:On]</td> </tr> <tr> <td>Judge</td> <td>判定[1:正常 2:異常 3:回復中]</td> </tr> <tr> <td>Action Count</td> <td>Action実行回数</td> </tr> <tr> <td>Last Ping1</td> <td>アドレス1の最後の応答[1:正常 2:異常]</td> </tr> <tr> <td>NoEchoCount1</td> <td>アドレス1の未応答回数</td> </tr> <tr> <td>NoEchoTime1</td> <td>アドレス1の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]</td> </tr> <tr> <td>Last Ping2</td> <td>アドレス2の最後の応答[1:正常 2:異常]</td> </tr> <tr> <td>NoEchoCount2</td> <td>アドレス2の未応答回数</td> </tr> <tr> <td>NoEchoTime2</td> <td>アドレス2の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]</td> </tr> </table>	Outlet No.	アウトレット番号[1~2]	Power	電源状態[0:Off 1:On]	Judge	判定[1:正常 2:異常 3:回復中]	Action Count	Action実行回数	Last Ping1	アドレス1の最後の応答[1:正常 2:異常]	NoEchoCount1	アドレス1の未応答回数	NoEchoTime1	アドレス1の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]	Last Ping2	アドレス2の最後の応答[1:正常 2:異常]	NoEchoCount2	アドレス2の未応答回数	NoEchoTime2	アドレス2の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]
Outlet No.	アウトレット番号[1~2]																				
Power	電源状態[0:Off 1:On]																				
Judge	判定[1:正常 2:異常 3:回復中]																				
Action Count	Action実行回数																				
Last Ping1	アドレス1の最後の応答[1:正常 2:異常]																				
NoEchoCount1	アドレス1の未応答回数																				
NoEchoTime1	アドレス1の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]																				
Last Ping2	アドレス2の最後の応答[1:正常 2:異常]																				
NoEchoCount2	アドレス2の未応答回数																				
NoEchoTime2	アドレス2の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]																				
VER	バージョンの表示																				
POS	<p>全アウトレットの電源状態取得 応答: mm 左側からアウトレット1~2 m=0:OFF 1:ON</p>																				
XPOS	<p>全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答: ABXXXX, ABXXXX 左側からアウトレット1~2 A=0:OFF 1:ON B=0:OFF遅延中 1:ON遅延中 XXXX=Bのタイマ残り時間</p>																				

ID	ユーザーIDの変更 1:Normal admin権限でのID名を変更します。 2:Supervisor supervisor権限でのID名を変更します。
PASS	パスワードの変更 新しいパスワードを2回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。 1:Normal admin権限のパスワードを変更します。 2:Supervisor supervisor権限のパスワードを変更します。
TELNET	変数「ipAdTelnetT」のアドレス, 変数「remoteTelnetPortT」のポートに TELNETクライアントとして接続します。 discCharに設定した文字を入力すると切断終了する。 一度に受信するデータは、概ね40Kバイト以下でご利用ください。
DATE	年月日設定 例) DATE yy/mm/dd yy:年 mm:月 dd:日
TIME	現在時刻設定 (秒は省略可) 例) TIME hh:mm:ss hh:時 mm:分 ss:秒
PING	ICMPを4回送信します。 例) PING [IPアドレス]
IPCONFIG	LANの通信設定を表示します。(例) IpAddress 192.168.10.1 SubnetMask 255.255.255.0 DefaultGateway 192.168.10.254 EthernetSpeed 100.0Mbps
CPURESET	CPUをリセットします。 コマンドを実行しても電源状態は変化しません。
PROMPT=n	0 (プロンプト表示無し) 1 (「>」のプロンプト表示) 2 (「 機器名 >」のプロンプト表示) *変数「promptMode」により接続直後のモードが決まります。
EXIT	回線切断 最初の文字がE, e, Q, qの場合はEXITと認識します。

※「XPOS」「VER」「PASS」などいくつかのコマンドはログイン時のみ有効です。

■ 応答コマンド

正常受付	: Command OK
不正なコマンド	: Unrecognized command
前コマンドの処理中のため コマンド実行せず	: Last command is pending. Command failed.

2. メールからの制御

メールを利用して電源制御ができます。

メールからのコマンドを利用するには、通信設定ならびにメール設定を正しく行う必要があります。

1. 本装置にメールを送信します。

件名（タイトル）は特に必要ありません。

本文1行目に「メール制御ユーザー名」を入力します。

本文2行目に「メール制御パスワード」を入力します。

本文3行目以降にコマンドを入力します。

コマンドを入力し改行を入れます。

コマンドの「LIST」と「&SAVE」は使えません。

本文最終行に「QUIT」コマンドを入力することでログアウトします。

「Q」または「E」の1文字だけでもログアウトします。

2. 数分後、本装置から結果を知らせるメールが届きます。

注意 メール制御ユーザー名とパスワードについては「第4章 Webブラウザでの設定、制御」の「メール設定」をご確認ください。

電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、メール制御にて新たにログインすることはできません。

3. WEBコマンドからの制御

WEBからダイレクトコマンドで電源制御ができます。

WEBコマンドでの制御方法

WEBコマンドは主に電源制御のためのコマンドであり、設定の変更は出来ません。

cmd.htm の後に下記のフォーマットで記入します。

〔「HTTP認証」が「None」の場合〕

?userid=[ユーザーID] &password=[パスワード] &command= [利用コマンド]

例) ユーザーID : admin / パスワード : magic / コマンド : por3

http://192.168.10.1/cmd.htm?userid=admin&password=magic&command=por3

(変数名は省略可能です。「userid」→「i」、「password」→「p」、「command」→「c」)

→ http://192.168.10.1/cmd.htm?i=admin&p=magic&c=por3

〔「HTTP認証」が「Basic」「Digest」〕

?command= [利用コマンド]

例) コマンド : por3

http://192.168.10.1/cmd.htm?command=por3

(変数名は省略可能です。「userid」→「i」、「password」→「p」、「command」→「c」)

→ http://192.168.10.1/cmd.htm?c=por3

利用可能コマンド

利用可能ユーザーLv[ident control admin supervisor]

VER

POS

XPOS

OLS

OLSn

POEOS / POEOU

利用可能ユーザーLv[control admin]

PONn / POFn / PORn

MPON / MPOF / MPOR

PSRn

PONVn

MPONV

POEONn / POEOFn / POEORn

第7章 ログイン機能

1. ロギング機能の設定・表示

デバイスの監視やその他のイベントログを1000件記録します。1000件を超えた場合は古いログから消去し、新しいログを記録します。記録されたログは、コマンドで表示・確認できます。

1) TELNETによる設定と表示

記録モード・表示モードの設定及び記録されたログの表示は、それぞれのコマンドを入力し<Enter>キーで実行します。ログインして制御する方法で操作します。

① 記録モードの変数名とコマンド

変数名 : logMode
コマンド : .logMode

② 表示モードの変数名とコマンド

変数名 : logDisp
コマンド : .logDisp

③ 接続中の表示のみを変更するコマンド

(通信が終了すると「logDisp」の値に戻ります。)

コマンド : LOGDISP

■ ログ制御変数のビット構成

値は最下位を0ビットとし、31ビットの構成になっています。

0：無、1：有

ビット	ビット
30 : 未使用	14 : 未使用
29 : 未使用	13 : TELNETログイン・ログアウト
28 : 未使用	12 : TELNET接続・切断
27 : 未使用	11 : Webログイン・ログアウト
26 : 未使用	10 : Web接続
25 : スクリプト実行/失敗	9 : メールログイン・ログアウト
24 : 未使用	8 : メール不正アクセス
23 : 未使用	7 : 未使用
22 : 未使用	6 : 未使用
21 : NTPアクセス	5 : 電源障害等
20 : 未使用	4 : 電源制御コマンド
19 : 未使用	3 : 未使用
18 : 未使用	2 : PING監視によるイベント
17 : 変数設定, write	1 : PING無応答
16 : 未使用	0 : PING送信
15 : 未使用	

■ 記録ログ一覧表

監視設定に基づくイベント（記録・表示のモード設定があります。）	
Ping	PING送信
No Echo	PING無応答
監視設定（Action）に基づくイベント	
No Action	処理なし
Outlet Reboot	電源リブート
Outlet On	電源ON
Outlet Off	電源OFF
スケジュールの場合は、「by Schedule」と表示されます。	
電源制御によるイベント	
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットの電源リブート
PON	指定されたアウトレットの電源出力開始
POF	指定されたアウトレットの電源出力停止
POR	指定されたアウトレットの電源リブート
アクセスによるイベント（接続先IDが表示されます。）	
→ Web	Web接続
⇒ Web	Webログイン
⇐ Web	Webログアウト（切断）
← Web	ログインしないで切断
MAIL,TELNETの接続、ログインなどもこれに準じます	
NTPServerAccessError	NTPサーバー接続エラー (3回続けて失敗した場合)
NTP --- hh:mm:ss	NTPサーバー接続
modelに関係のない表示	
Mail Error	メール送信エラー

第8章

SNMPについて

1. SNMPについて

本装置はSNMPエージェント機能を装備しています。SNMPマネージャーを利用して、ネットワークシステムの電源管理を行うことができます。
SNMPでは電源制御は行えません。

2. 機器設定

本装置をTELNET接続にて下記の項目を設定してください。
詳細は「第6章 その他の制御」をご参照ください。

- ① SNMPのSET, GET有効化
変数 : snmpGetSetEnabled
デフォルト : 0
(0:無効 1:有効)
- ② SNMP TRAPの有効化
変数 : snmpTrapEnabled
デフォルト : 0
(0:無効 1:有効)
- ③ SNMP不正アクセス時のTRAP通知
変数 : snmpAuthenTrapEnabled
デフォルト : 2
(1:有効 2:無効)
- ④ TRAP送信回数
変数 : snmpTrapSendN
デフォルト : 1
(1~9)
- ⑤ TRAP送信間隔 (秒)
変数 : snmpTrapSendInterval
デフォルト : 1
(1~9)
- ⑥ TRAP送信先アドレス
変数 : snmpTrapAddr
デフォルト : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0
(8箇所)

- ⑦ SNMP用フィルターの有効化
 変数 : snmpFilterEnabled
 デフォルト : 0
 (0:無効 1:有効)
- ⑧ フィルター有効時許可するアドレス
 変数 : snmpFilterAddr
 デフォルト : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
 0.0.0.0,0.0.0.0
 (10箇所)
- ⑨ フィルター有効時のMask
 変数 : snmpFilterEnabled
 デフォルト : 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255
 (10箇所)
- ⑩ SNMP GETコミュニティ名
 変数 : getCommunity
 デフォルト : Public
- ⑪ SNMP SETコミュニティ名
 変数 : setCommunity
 デフォルト : Public
- ⑫ SNMP TRAPコミュニティ名
 変数 : trapCommunity
 デフォルト : Public

3. MIBについて

本機を管理するためのプライベートMIBを準備しています。
当社ホームページ (<https://www.meikyo.co.jp/download/>) よりMEIKYO.MIBをダウンロードし
ご利用ください。

プライベートMIBファイルをNMSにロード・コンパイルすることにより、本機の管理をNMS上で行うことができます。

注意	MIBのロード・コンパイル使用方法についての詳細は、ご利用されるNMSのマニュアルを参照してください。
-----------	---

第9章

ネットワーク

稼動監視

1. 機器設定

本装置からUDPのパケットを送出し、電源状態を通知することができます。

「RPC-EYE v3」(オプション 有償ソフトウェア) を利用すれば、各機器からのパケットを受信し一元管理することができます。

下記の変数を設定してください。(①～④はWEB通信詳細画面により設定できます)

① 状態通知機能

変数	:	syslogEnabled
デフォルト	:	0

0:無効 1:syslogを送信
2:MPMPパケットフォーマットで送信
3:MSRPパケットフォーマットで送信

RPC-EYE v3を使用するパソコンのアドレスを設定します。

② 送信先アドレス

変数	:	ipAdCenter
デフォルト	:	0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0 (3箇所)

RPC-EYE v3を使用するパソコンのポート番号を設定します。

③ ポート番号

変数	:	centerPort
デフォルト	:	5000

情報を通知する間隔を設定します。

④ 定期通知の送信間隔 (秒)

変数	:	centerSendTimer
デフォルト	:	300

電源変化時は、定期通知間隔を待たず直ちに通知します。その時の通知回数を設定します。

⑤ 電源変化時の通知回数

変数	:	centerChangeSendCount
デフォルト	:	3

電源変化時の通知の2回目以降の通知間隔を設定します。

⑥ 電源変化時の通知間隔 (秒)

変数	:	centerChangeSendTimer
デフォルト	:	10

2. RPC-EYE v3の利用

RPC-EYE v3は、RPCシリーズからの送信情報を利用して、各拠点のネットワークの稼動状態をリアルタイムで監視するネットワーク稼動監視ソフトです。

以下の特長があります。

- 死活監視 電源状態の表示と監視
- アイコンによるビジュアルな状態表示
- リアルタイムに見れる詳細な情報ビューア
- 受信情報のデータ保存(CSV形式)
- 状態変化時にE-mail又は音による通知機能
- 個別の機器への接続機能(HTML or TELNET)
- 1本のソフトでPC3台まで利用できます。

詳細、購入方法等は下記のアドレスで確認ください。

<https://www.meikyo.co.jp/download/>

設定前の確認

設定用PCと本装置をLANで確実に接続してください。

RPC-EYE v3をPCにインストールしてください。

RPC-EYE v3はWindows対応ソフトです。

RPC-EYE v3の設定、利用方法は、RPC-EYE v3説明書(PDFファイル)をご覧ください。

注意	RPC-EYE v3で本装置のアウトレットの状態は確認できますが、PoEハブに接続された受電デバイスの電源状態は取得することはできません。
-----------	---

第10章
PoEハブとの
接続

1. PoEハブ制御用スクリプト

PoEハブとの通信はTELNET接続にて行います。「TELNET接続の確認」「ログイン」から一連の制御を経て「ログアウト」までの一連の処理をスクリプトによって定義する必要があります。スクリプト終了時、TELNET接続は切断します。

【スクリプトについて】

デフォルト設定として「スクリプト1」には、パナソニックESネットワークス株式会社製MNOシリーズPoEハブ用のスクリプトが入っています。

(1)テキスト仕様

- テキストサイズは2キロバイトまでです。
- テキスト行数は250行までです。
- テキストの第1行は「TELNET」とします。
- 行の先頭やパラメータの区切りに任意個のタブや空白を入れても構いません。
- スクリプト関数は大文字でも小文字でも可能です。
- 2バイト文字にも対応しています。

(2)スクリプト関数詳細

文字列	二重引用符「"」で囲みます。 CRコードは「\r」、LFコードは「\n」で表します。 1個の¥は「¥¥」で、1個の”は「¥”」で表します。 制御コード等は「¥xnn」でnnは2桁の16進数で表します。 (長さは最大63バイト)
timeout 時間	スクリプトタイムアウト。単位は秒、最大1023まで指定できます。 時間が来たら強制的にスクリプトを終了します。(終了コードは255)
delay 時間	一時停止。単位は100ミリ秒、最大1023まで指定できます。
goto ラベル	指定[ラベル]に飛びます。
ラベル	ラベルは1~99までの数字とします。 行の残りにはコメントしか書くことはできません。
exit 終了コード	スクリプト終了。[終了コード]は0~255。省略は0。 変数「debOlShutdownExit」に設定されます。
send 文字列	[文字列]を送信します。
recv	データを受信バッファに受信します。
recv 時間 goto ラベル	データを受信バッファに受信し、[時間]以内に受信できない場合は[ラベル]に飛びます。(時間の単位は秒)
recv 時間 exit 終了コード	データを受信バッファに受信し、[時間]以内に受信できない場合は終了します。
if 文字列 goto ラベル	受信バッファに [文字列]があれば [ラベル]に飛びます。

if 文字列 exit 終了コード	受信バッファに[文字列]があれば終了します。
unless 文字列 goto ラベル	受信バッファに[文字列]が無ければ[ラベル]に飛びます。
unless 文字列 exit 終了コード	受信バッファに[文字列]が無ければ終了します。
/	コメント。各文の終わりにも「/」を置いてコメントを書くことができます。
set 文字列	メッセージ変数「debOIShutdownMsg」に文字列を入れます。
sendname	ユーザーIDをCRコードつきで送信します。 「ログイン用ID」設定を参照します。
sendpassword	パスワードをCRコードつきで送信します。 「ログイン用パスワード」設定を参照します。
sendpoeport	PoEハブのポート番号を送信します。 「接続先PoEハブのポート番号」設定を参照します。CRコードはつきません。
sendpoeoncmd	給電有効コマンド文字列をCRコードつきで送信します。 「給電有効設定コマンドの文字列」設定を参照します。
sendpoeoffcmd	給電無効コマンド文字列をCRコードつきで送信します。 「給電無効コマンドの文字列」設定を参照します。
sendpoestscmd	ポート設定参照コマンド文字列をCRコードつきで送信します。 「ポート設定参照コマンドの文字列」設定を参照します。
ifpoeoncmd goto ラベル	スクリプト起動コマンドがONコマンドであれば [ラベル] に飛びます。
ifpoeoffcmd goto ラベル	スクリプト起動コマンドがOFFコマンドであれば [ラベル] に飛びます。
ifpoestscmd goto ラベル	スクリプト起動コマンドが状態取得コマンドであれば [ラベル] に飛びます。
waitpoereboot	Wait時間を待ちます。待ち時間は「PoE給電リセットのOFF/ON間隔」設定を参照します。
getpoeportno goto ラベル	PoE ハブから受信した文字列（行）の先頭からポート番号を取り込みます。取り込んだポート番号は以下のステータス設定関数で使用します。 数字で始まらない場合は、ヘッダやコメント行とみなし [ラベル] に飛びます。
setpoestson	getpoeportno関数で取り込んだポートのステータスを「ON」に設定します。
setpoestsoff	getpoeportno関数で取り込んだポートのステータスを「OFF」に設定します。
setpoestsnone	getpoeportno関数で取り込んだポートのステータスを「NONE」に設定します。

2. 通信結果, 状態取得

本装置は、接続されるPoEハブの台数にかかわらず一度につき一つの通信のみを行います。

最後の通信結果を、以下のWeb画面上で確認することができます。

- 「詳細状態表示/PoE 詳細情報-PoE HUB最終状態」
- 「電源制御/PoE 出力制御-PoE接続機器制御-St」
- 「詳細状態表示/PoE 詳細情報-PoE対象状態-St」

[1]エラーコード

Web画面上で通信結果を確認したときに表示される番号と示されている状態は以下のとおりです。

エラーコード	状態
0	正常/未実行
1	受電デバイスの制御が許可されていない。[WEBでは制御がガードされます]
2	受電デバイスの接続先PoEハブが設定されていない。
3	受電デバイスの接続先ポート番号が設定されていない。
7	ポートを給電有効にしたものの給電がなされていない。
8	制御中の受電デバイスに対して制御を指示した。
9	外部・内部の処理によってコマンドキューがいっぱいになった。
10	PoEハブのIPアドレスが設定されていない。
11	PoEハブのスク립トが設定されていない。
12	スク립トの変換に失敗した。
50以降	PoEハブスク립ト実行結果
253	TELNET切断
254	TELNET接続エラー

[2]受電デバイスの状態表示

本装置は、以下のタイミングで受電デバイスの状態を取得し、ステータス変数に反映します。

- ・制御コマンドを実行した後
- ・起動時から一定時間間隔で（デフォルト：300秒）
- ・状態取得コマンド実行

受電デバイスの状態は次のWeb画面上で見られます。

- ・「簡易状態表示/PoE対象状態」
- ・「詳細状態表示/PoE詳細情報-PoE対象状態-給電」
- ・「電源制御/PoE出力制御/PoE HUB最新状態-給電」

また、TELNET通信、メール、ダイレクトWEBコマンドでも状態を見ることができます。

- ・給電状態参照コマンド： POEOS
戻り値：mmmmmmmm (左から、受電デバイス1→8)
- ・状態取得コマンド： POEOU

表示	値	状態
OFF	0	PoEハブから給電されていない状態。 LANケーブル未接続であっても給電が無効であればOFF状態とみなします。
ON	1	PoEハブから給電されている状態。
NONE	2	受電デバイスの接続先PoEハブが設定されていない。 <ul style="list-style-type: none"> • 受電デバイス未接続 • 受電デバイスのポート番号があていない • 受電デバイスの異常 • デバイスやLANケーブルがPoEに対応していない
不明	3	以下の理由により、給電状態を取得できない状態 <ul style="list-style-type: none"> • PoEハブ設定、受電デバイスとPoEハブとの連携設定、スクリプトが正しくない • PoEハブとの接続エラー • スクリプト実行エラー
更新	8	制御指示を受け取ってから、制御結果を取得するまでの間
無効	9	「制御有効設定」により制御が無効になっている状態

第11章
仕様一覧

■変数一覧表

変数名	初期値	内容	備考
ipAdEntAddr	192.168.10.1	IPアドレス	
ifPhysAddress	(機器毎)	MACアドレス(ReadOnly)	
serialNo		未使用	
sysName	Noname	機器名称	全角10文字 半角20文字以内
snmpGetSetEnabled	0	SNMPのSET, GETの有効化	0:無効 1:有効
snmpTrapEnabled	0	SNMP TRAPの有効化	0:無効 1:有効
snmpAuthenTrapEnabled	2	SNMP不正アクセス時のTRAP通知	1:有効 2:無効
snmpTrapSendN	1	TRAP送信回数	1~9
snmpTrapSendInterval	1	TRAP送信間隔(秒)	1~9
snmpTrapAddr		TRAP送信先アドレス	“.”区切りで8箇所まで
snmpFilterEnabled	0	SNMP用フィルタの有効化	0:無効 1:有効
snmpFilterAddr		フィルタ有効時許可するアドレス	“.”区切りで10箇所まで
snmpFilterMask	255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	フィルタ有効時のMask	10箇所
getCommunity	public	SNMP GETコミュニティ名	半角20文字以内
setCommunity	public	SNMP SETコミュニティ名	半角20文字以内
trapCommunity	public	SNMP TRAPコミュニティ名	半角20文字以内
sysDescr	*1文字列	(ReadOnly)	
sysContact	inforpc@meikyo.co.jp	連絡先	
sysLocation	Nowhere	設置場所	全角31文字 半角63文字以内
ifDescr	*2文字列	(ReadOnly)	
ipAdEntNetMask	255.255.255.0	ネットマスク	
ipRouteDest		デフォルトゲートウェイ	
netBootpRetry	0	BOOTPリトライ回数	
netRarpRetry	0	RARPリトライ回数	
telnetEnabled	0	TELNETの有効化	0:無効 1:有効
telnetPort	23	TELNETのポート番号	
rshdEnabled	0	リモートシェル(rsh)設定	0:無効 1:有効
rshdPort	514	リモートシェル(rsh)に使用する着信ポート	
rshErrPort	1000	リモートシェル(rsh)に使用するエラーポート	
utilityPort	9000	UTYのポート番号	
fileLoadPort	9200	HTMLファイルをロードするポート	
httpEnabled	1	HTTPの有効化	0:無効 1:有効
httpPort	80	HTTPのポート番号	
httpRefreshInterval	30	HTTP自動更新間隔(秒)	
httpRefreshEnabled	0	HTTP自動更新の有効化	0:無効 1:有効
httpCommandEnabled	0	HTTPコマンドの有効化	0:無効 1:有効
dhcpEnabled	0	DHCPの有効化	0:無効 1:有効
ipFilterEnabled	0	IPフィルタの有効化	0:無効 1:有効

ipFilterAddr	192.168.10.0	IPフィルタアドレス	“ ” 区切りで10箇所まで
ipFilterMask	255.255.255.0, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	IPフィルタマスク	10箇所
model	PoE8M2	モデル名 (ReadOnly)	
version		バージョン表示 (ReadOnly)	
debTcpInactiveTimer	10	TELNET通信時の無通信タイマー(分)	
autoLogoutEnabled	1	自動ログアウト監視の有効化	0:無効 1:有効
userLoginTimeout	600	HTTP自動ログアウト時間(秒)	30~30000
debMasterRebootTime	10	全アウトレットリブート時のOFF時間(秒)	8~3600
debOIMaster	1,2	各アウトレットの連動設定	左→右 1→2アウトレット デフォルト時, 連動無し
debOIPowerOnTime	1,2	各アウトレットのON時間	左→右 1→2アウトレット -1~3600
debOIPowerOnSTime	1,2	本体起動時に適用する電源出力ON 遅延時間(単位:秒)	左→右 1→2アウトレット -1~3600
debOIPowerOnTTime	0,0	スケジュールに適用する電源出力ON 遅延時間(単位:秒)	左→右 1→2アウトレット 0~3600
debOIShutdownTime	0,0	各アウトレットのOFF時間	左→右 1→2アウトレット -1~3600
debOIR rebootTime	10,10	各アウトレットのREBOOT時間	左→右 1→2アウトレット 8~3600
debOIWdogAddr		監視先IPアドレス	左→右 1→2アウトレット “ ” 区切りで2箇所まで
debOIWdogSendMax	10,10	PING監視 送信回数	左→右 1→2アウトレット 1~100
debOIWdogNoResMax	10,10	PING監視 無応答回数	左→右 1→2アウトレット 1~100
debOIWdogActCond	1,1	PING監視 監視対象数	左→右 1→2アウトレット 1~4
debOIWdogAction	0,0	PING監視 Action	左→右 1→2アウトレット 0:無動作 1:ログのみ 2:リブート
debOIWdogActCount	0,0	PING監視 Action回数 (ReadOnly)	左→右 1→2アウトレット
debOIWdogStatus	0,0	PING監視判断 (ReadOnly)	左→右 1→2アウトレット 0:未設定 1:正常 2:異常 3:回復中
debOIR rebootCount	1,1	PING監視 再Reboot回数	左→右 1→2アウトレット 1~100
debOIR rebootInterval	1,1	PING監視 再Reboot間隔(分)	左→右 1→2アウトレット 1~60
debOIR actionLimit	0,0	PING監視 異常時の1時間ごとに繰り 返すリポート回数	左→右 1→2アウトレット 0:無制限
debOIR recvErrorMax	0,0	メールサーバー監視 接続障害回数	左→右 1→2アウトレット 0:機能無効
debOIWdogLastStatus	0,0,0,0,0,0,0,0	PING監視 最終応答 (ReadOnly)	左→右 1→2アウトレット 0:未設定 1:正常 2:異常 “ ” 区切りでアウトレット×4
debOIWdogDefGateway	0,0,0,0,0,0,0,0	PING監視 デフォルトゲートウェイ	左→右 1→2アウトレット 0:無効 1:有効 “ ” 区切りでアウトレット×4
debOIR noResCount	0,0,0,0,0,0,0,0	PING監視 無応答回数 (ReadOnly)	左→右 1→2アウトレット “ ” 区切りでアウトレット×4

debOlRespTime	0,0,0,0,0,0,0	PING監視 IPアドレスからの応答時間 (ms)	左→右 1→2アウトレット 0:未設定 1:PING応答の最小値 “ ” 区切りでアウトレット×4
debOlActionMax	12	PING監視 異常回数	
debOlNoEchoInterval	5	PING監視 無応答検出時間(秒)	5~60
debOlPingInterval	1	PING監視 送信間隔(分)	1~60
pingInterval2	0,0	PING監視 送信間隔個毎(分)	左→右 1→2アウトレット 0~60 0:未設定
debOlPowerOnTimeV	0,0,0,0,0,0,0	仮想アウトレット用のON遅延時間	左→右 1→8アウトレット -1~3600
debOlName	Outlet1, Outlet2,	アウトレット名	全角10文字 半角20文字以内
debOlNameV		仮想アウトレットの名称	全角10文字 半角20文字以内
debOlControlActivated	0	電源制御制限同意フラグ	0:非同意 1:同意
poeHubName		PoEハブ名称	“ ” 区切りで4箇所 全角10文字 半角20文字以内
poeHubTcpAddr		PoEハブのIPアドレス	“ ” 区切りで4箇所
poeHubTcpPort	0,0,0,0	PoEハブへの通信用ポート番号	“ ” 区切りで4箇所
poeHubScript	1,1,1,1	PoEハブへの実行スクリプト番号	“ ” 区切りで4箇所 1~4
poeHubLoginID	manager	PoEハブへのログイン用ID	“ ” 区切りで4箇所 半角16文字以内
poeHubPassword	manager	PoEハブへのログイン用パスワード	“ ” 区切りで4箇所 半角16文字以内
poeHubOnCmdStrings	no peth shutdown	PoEハブ 給電有効設定コマンドの文字列	半角32文字以内
poeHubOffCmdStrings	peth shutdown	PoEハブ 給電無効設定コマンドの文字列	半角32文字以内
poeHubStsCmdStrings	show peth-port	PoEハブ ポート設定参照コマンドの文字列	半角32文字以内
poeDevName	PoeDev1, PoeDev2, PoeDev3, PoeDev4, PoeDev5, PoeDev6, PoeDev7, PoeDev8	PoE給電先デバイス名称	“ ” 区切りで8箇所 全角10文字 半角20文字以内
poeDevControlEnabled	0,0,0,0,0,0,0	PoE給電制御の有効化	“ ” 区切りで8箇所 0:無効、1:有効
poeDevConnectedHubNo	0,0,0,0,0,0,0	PoE給電先デバイスの接続先ハブ番号	“ ” 区切りで8箇所 1~4
poeDevConnectedHubPort	0,0,0,0,0,0,0	PoE給電先デバイスの接続先ハブ上のポート番号	“ ” 区切りで8箇所
poeDevAddress		PoE給電先デバイスのIPアドレス	“ ” 区切りで8箇所
poeDevWdogSendMax	10,10,10,10,10,10,10	(PoE給電先デバイス用)PING監視 送信回数	左→右 1→8 PoE給電デバイス 1~100
poeDevWdogNoResMax	10,10,10,10,10,10,10	(PoE給電先デバイス用)PING監視 無応答回数	左→右 1→8 PoE給電デバイス 1~100
poeDevWdogAction	0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)PING監視 Action	左→右 1→8 PoE給電デバイス 0:無動作, 1:ログのみ, 2:リポート
poeDevWdogActCount	0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)PING監視 Action回数 (Read Only)	左→右 1→8 PoE給電デバイス
poeDevWdogStatus	0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)PING監視 監視判断 (Read Only)	左→右 1→8 PoE給電デバイス 0:未設定, 1:正常, 2:異常, 3:回復中
poeDevRebootCount	1,1,1,1,1,1,1	(PoE給電先デバイス用)PING監視 再Reboot回数	左→右 1→8 PoE給電デバイス 1~100
poeDevRebootInterval	1,1,1,1,1,1,1	(PoE給電先デバイス用)PING監視 再Reboot間隔(分)	左→右 1→8 PoE給電デバイス 1~60
poeDevWdogLastStatus	0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)PING監視 最終応答 (Read Only)	左→右 1→8 PoE給電デバイス 0:未設定, 1:正常, 2:異常 “ ”区切りでデバイス×4(先頭のみ)
poeDevNoResCount	0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)PING監視 無	左→右 1→8 PoE給電デバイス

	0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0	応答回数 (Read Only)	“,”区切りでデバイス×4(先頭のみ)
poeDevRespTime	0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)PING監視 IP アドレスからの応答時間(ms)	左→右 1→8 PoE給電デバイス 0: 未設定、1:PING応答の最小値 “,”区切りでデバイス×4(先頭のみ)
poeDevPingInterval2	0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)PING監視 送 信間隔個毎(分)	左→右 1→8 POE給電デバイス 0~60、0: 未設定
poeScriptName		PoEスクリプト名称	“,”区切りで4箇所 全角10文字 半角20文字以内
poeDevScriptMsg	“”	(PoE給電先デバイス用)スクリプトの成 功失敗ログ	左→右 1→8 POE給電デバイス “,”区切り
poeDevScriptExit	0,0,0,0,0,0,0	(PoE給電先デバイス用)スクリプトの成 功失敗変数	左→右 1→8 POE給電デバイス “,”区切り
poeUpdateInterval	5	PoE給電設定確認間隔(分)	1~60
poeWaitCmd2Time	10	PoE給電リセットのOFF→ON間隔(秒)	1~60
poeCheckDelay	5	PoE給電設定後の状態確認デレイ (秒)	1~30
poeForceCheckTime	15	PoE給電設定後の強制状態確認デレ イ(秒)	5~60
schEnabled	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールの有効化	0:無効 1:有効
schDay	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュール曜日(全20個)	0:毎日 1:日 2:月 3:火 4:水 5:木 6:金 7:土
schHour	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュール時間(全20個)	0~23
schMinute	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュール分(全20個)	0~59
schOutletNo	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールアウトレット(全20個)	0:全アウトレット 1~2:アウトレットNo 100:全仮想アウトレット 101~108:仮想アウトレット1~8
schAction	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールアクション (全20個)	0:無動作 1:リポート 2:電源ON 3:電源OFF 4:定時メール
ipAdDnsServer		DNSサーバーアドレス	
mailUserName		メール ユーザー名	半角63文字以内
mailPassword		メール パスワード	半角40文字以内
mailCommandLoginName		メール コマンドユーザー名	半角63文字以内
mailCommandPassword		メール コマンドパスワード	半角63文字以内
mailLastEvent		最新のイベント内容を保管	
mailContent	sysName, sysLocation, ipAdEntAddr, ifPhysAddress, mailExtraMsg1, mailLastEvent	通知メールの内容	最大8 パターンまで SysName/sysLocation/ipAdEntAddr IfPhysAddress/mailLastEvent mailExtraMsg1/mailExtraMsg2 mailExtraMsg3”
mailAddr		メールアドレス	
mailExtAddr		送信先メールアドレス	8個
mailExtKind	1,1,1,1,1,1,1	メール送信の種類	1:To 2:CC 3:BCC
mailInfoFlag	1,1,1,1,1,1,1 0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0	①イベント テスト ②イベント PING ③<不使用> ④イベント スケジュール ⑤<不使用> ⑥<不使用> ⑦<不使用> ⑧<不使用> ⑨<不使用> ⑩イベント ハートビート ⑪イベント ログ件数超過	0:無効 1:有効

mailCommandEnabled	0	メールコマンドの有効化	0:無効 1:有効
mailCommandAddrEnabled	1	メールコマンドアドレスの有効化	(未使用)
mailRecvProtocol	1	メール受信プロトコル	1:POP3 2:IMAP
mailLogoutTime	10	<不使用>	<不使用>
mailCheckInterval	3	メールチェック間隔(分)	1~60
mailApopEnabled	0	APOPの有効化	0:無効 1:有効
mailSmtplibEnabled	0	SMTP AUTHの有効化	0:無効 1:有効
mailSmtplibMask	7	SMTP AUTHのMask	
mailImapAuthMask	6	IMAP AUTHのMask	
mailRetryCount	3	メールリトライ回数	1~99
mailRetryInterval	10	メールリトライ間隔(秒)	1~999
mailRecvPort	110	メール受信ポート	0~65535
mailSendPort	25	メール送信ポート	0~65535
mailExtraMsg	¥¥n	通知メール ユーザー定義文字列	最大3パターンまで 全角21文字 半角40文字以内 (¥¥nは改行コードの意味)
promptMode	2	TELNETプロンプトモード	0:無し 1:「>」の表示 2:「機器名>」の表示
logMode	0111 1111 1111 1111 1111 1111 1111 0100	ログ記録モード(31ビット)	0:無効 1:有効
logDisp	0111 1111 1111 1111 1111 1111 1111 1111	ログ表示モード(31ビット)	0:無効 1:有効
mailLogCount	0	メールで送信する更新されたログの数	0:無効 1~20:閾値
mailLogDisp	0111 1111 1111 1111 1111 1111 1111 1111	メールログ表示モード(31ビット)	0:無効 1:有効
ipAdNtpServer		NTPサーバーのIPアドレス	
ntpInterval	6	NTPサーバーへのアクセス間隔 (×10分)	
syslogEnabled	0	状態通知の有効化	0:無効 1:syslogを送信 2:MPMPパケットフォーマットで送信 3:MSRPパケットフォーマットで送信
ipAdCenter		MSRP/sysLog送信先IPアドレス	3箇所まで
centerPort	5000,5000,5000	MSRP/sysLog送信先ポート番号	
terminalId	0	監視情報ID番号	0~9999
centerSendTimer	300	監視情報送信間隔(秒)	
centerChangeSendTimer	10	状態変化時の送信間隔(×100ミリ秒)	
centerChangeSendCount	3	状態変化時の送信回数	
ipAdTelnetT		TELNETからのTELNET中継先アドレス	
ipAdTelnetU		UTYからのTELNET中継先アドレス	
remoteTelnetPortT	23	TELNETからのTELNET中継先ポート	
remoteTelnetPortU	23	UTYからのTELNET中継先ポート	
remoteTelnetMyPort	5000	TELNET中継時の発信ポートベース番号	
discChar		中継中の通信切断キャラクタ	
debWakeupPhysAddr	,	WOL MACアドレス	“,” 区切りで2箇所まで
debWakeupMaxCount	2	マジックパケット送信回数	
debWakeupInterval	15	マジックパケット送信間隔(秒)	
debWakeupPhysAddrV	,,,,,	仮想アウトレットWOL MACアドレス	“,” 区切りで8箇所まで
ipAdMailRecvServer		メール受信サーバーアドレス	
ipAdMailSendServer		メール送信サーバーアドレス	

etherSpeed	2	接続速度	0:接続していない 1:10.0Mbps 2:100.0Mbps
pingPktSize	16	PINGパケットのデータ長	16~1472
resetCause		リセット原因表示	
recvErrorCount	0	PING監視 メールサーバへのアクセスエラー回数	0:表示のみ
ledBlinkEnabled	1	LEDの点滅の有効化	0:無効 1:有効
broadGroup	0	一斉電源制御の有効化	0:無効 1~8:グループ
broadPhysAddr		一斉電源制御側MACアドレス	
httpCommandReturn		<不使用>	
httpCommandNo	0	<不使用>	<不使用>
httpCommandSet	1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1	<不使用>	<不使用>
httpScreen	1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1	ブラウザに表示される画面/項目の表示設定	0:非表示 1:表示
httpPageType	0	PC, スマートフォン等端末の種類にあわせて画面を切り替えるための設定	
httpPageStart	0	<不使用>	<不使用>
httpAuthMode	2	HTTP認証モード	0:None 1:Basic認証 2:Digest認証
realmName	PoE8M2	認証領域 (realm) 名	半角英数字20文字以内
nonceTime	180	nonceの有効時間 (秒)	30~30000
hbEnabled	0	ハートビートの有効化	0:無効 1:有効
hbIpAddr		ハートビートの対象IPアドレス	0は無視
hbPort	9100	ハートビートの待ち受けポート	
hbPoPort	9100	ハートビートの送信側ポート確認	
hbInterval	8	ハートビートのパケットを受ける間隔 (秒)	1~99
hbRebootTime	30	ハートビートのリポート時間 (秒)	1~99
hbTimeoutMax	3	ハートビートの動作を行うカウント	1~99
hbActionMax	3	ハートビートのリポート実行限度回数	1~99
hbAction	0,0,0,0	ハートビートのアウトレット毎の動作	0:無効 1:ON 2:ON追従 3:OFF 4:OFF追従 5:リポート
hbTimeoutCount	0	タイムアウトの累積回数 (ReadOnly)	
hbActionCount	0,0,0,0	アウトレット毎の動作を実行した回数 (ReadOnly)	
hbStat	0	ハートビート状態 (ReadOnly)	0:待機中, 1:パケットを受信
hbCallingIpAddr		最後にパケットを受信したIPアドレス (ReadOnly)	
searchEnabled	1	RPCサーチソフトからの受信設定	0:無効 1:有効
versionupEnabled	3	バージョンアップの有効化	0:無効 1:ローカル更新のみ 2:オンライン更新のみ 3:有効
revision	01	ファームウェアバージョンアップ機能コード	

*1文字列 Meikyo Remote PoE and Power Controller, PoE8M2 Ver. 1.00A

*2文字列 Meikyo 100BASE-TX Driver

■ログ一覧表

内 容	情 報	TELNETなどのLOG
ログ開始		Log Start
PING送信	outlet no, lpaddr no.	ping
PING無応答	outlet no, lpaddr no.	No Echo
死活判定 (NoAction)	アウトレットno.	No Action
死活判定 (REBOOT)	アウトレットno.	Outlet Reboot
死活判定 (アウトレットON)	アウトレットno.	Outlet On
死活判定 (アウトレットOFF)	アウトレットno.	Outlet Off
正常/回復中	アウトレットno.	Outlet Recovered
スケジュール (REBOOT)	アウトレットno.	Outlet Reboot by Schedule
スケジュール (アウトレットON)	アウトレットno.	Outlet On by Schedule
スケジュール (アウトレットOFF)	アウトレットno.	Outlet Off by Schedule
全アウトレットON	アウトレットALL ID (IDは接続者)	MPON
全アウトレットOFF	アウトレットALL ID (IDは接続者)	MPOF
全アウトレットREBOOT	アウトレットALL ID (IDは接続者)	MPOR
アウトレットON	アウトレットnoID (IDは接続者)	PON
アウトレットOFF	アウトレットnoID (IDは接続者)	POF
アウトレットREBOOT	アウトレットnoID (IDは接続者)	POR
メールログイン要求	lpaddr no. (no.は設定番号)	-->Mail
メールログイン	lpaddr no. (no.は設定番号)	==>Mail
メールログアウト	lpaddr no. (no.は設定番号)	<=>Mail
TELNET接続	IPaddr	-->Telnet
TELNETログインせず切断	IPaddr	<--Telnet
TELNET多重超接続	IPaddr	>>>Telnet
TELNETログイン	IPaddr	==>Telnet
TELNETログアウト	IPaddr	<=>Telnet
Web接続		-->Web
Webログイン		==>Web
Webログアウト		<=>Web
設定変更	[変数名] ID (IDは接続者)	variable set (xxxx)
設定書込(WRITE)	ID (IDは接続者)	write to FROM
NTPサーバー接続	hour minute second	NTP --- hhimiss
NTPサーバー接続エラー		NTP Server Access Error
メールエラー		Mail Error
PoE給電ON	受電デバイス番号	POEON
PoE給電OFF	受電デバイス番号	POEOF
PoE給電リポート	受電デバイス番号	POEOR
PoE状態確認	9	POEOU
PING送信	受電デバイス番号	PoE ping
PING無応答	受電デバイス番号	PoE No Echo
死活判定(No Action)	受電デバイス番号	PoE No Action by Ping
死活判定(REBOOT)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Reset by Ping
死活判定(給電ON)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Enabled by Ping
死活判定(給電OFF)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Disabled by Ping

正常/回復	受電デバイス番号	PoE Device Recovered
SNMP TRAP	受電デバイス番号	PoE Send Trap
スケジュール(No Action)	受電デバイス番号	PoE No Action by Schedule
スケジュール(REBOOT)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Reset by Schedule
スケジュール(給電ON)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Enabled by Schedule
スケジュール(給電OFF)	受電デバイス番号	PoE Power Supply Disabled by Schedule
スケジュール(定時メール)	(なし)	Mail by Schedule ※通常のアウトレットと同じ
スクリプト実行成功	受電デバイス番号 (1-8, 9は情報取得)	PoE Script Done, hub=[PoE/ハブ番号]
スクリプト実行失敗	受電デバイス番号 (1-8, 9は情報取得)	PoE Script Failed, code=[コード], hub=[PoE/ハブ番号]
コマンド実行失敗	受電デバイス番号	PoE Command Failed, code=[コード]

■制御コマンド一覧表

制御コマンド	内 容
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リブート）
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始 n=1~2
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止 n=1~2
PORn	指定されたアウトレットのリブート（電源リブート） n=1~2
PSRn	指定されたアウトレットの電源状態反転 n=1~2
MPONV	全仮想アウトレットにマジックパケットを送信します。
PONVx	(xは1~8) debWakeupInterval後にマジックパケットを送信します。
OLSn	<p>死活監視状態の表示 n=1~2 nを省略すると全てのアウトレットを表示します。 コンマ区切りで表示。</p> <p>Outlet No. アウトレット番号[1~2] Power 電源状態[0:Off 1:On] Judge 判定[1:正常 2:異常 3:回復中] Action Count Action実行回数 Last Ping1 アドレス1の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount1 アドレス1の未応答回数 NoEchoTime1 アドレス1の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答] Last Ping2 アドレス2の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount2 アドレス2の未応答回数 NoEchoTime2 アドレス2の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]</p>
VER	バージョンの表示
POS	<p>全アウトレットの電源状態取得 応答: mm 左側からアウトレット1~2 m=0:OFF 1:ON</p>
XPOS	<p>全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答: ABXXXX, ABXXXX 左側からアウトレット1~2 A=0:OFF 1:ON B=0:OFF遅延中 1:ON遅延中 XXXX=Bのタイマ残り時間</p>
ID	<p>ユーザーIDの変更 1:Normal Admin権限でのID名を変更します。 2:Supervisor Supervisor権限でのID名を変更します。</p>
PASS	<p>パスワードの変更 新しいパスワードを2回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。 1:Normal Admin権限のパスワードを変更します。 2:Supervisor Supervisor権限のパスワードを変更します。</p>

TELNET	変数「ipAdTelnetT」のアドレス、変数「remoteTelnetPortT」のポートにTELNETクライアントとして接続します。 discCharに設定した文字を入力すると切断終了します。 一度に受信するデータは、概ね40Kバイト以下でご利用ください。
DATE	年月日設定 例) DATE yy/mm/dd yy:年 mm:月 dd:日
TIME	現在時刻設定 (秒は省略可) 例) TIME hh:mm:ss hh:時 mm:分 ss:秒
PING	ICMPを4回送信します。 例) PING [IPアドレス]
IPCONFIG	LANの通信設定を表示します。(例) IpAddress 192.168.10.1 SubnetMask 255.255.255.0 DefaultGateway 192.168.10.254 EthernetSpeed 100.0Mbps
CPURESET	CPUをリセットします。 コマンドを実行しても電源状態は変化しません。
PROMPT=n	0 (プロンプト表示無し) 1 (「>」のプロンプト表示) 2 (「 機器名 >」のプロンプト表示) *変数「promptMode」により接続直後のモードが決まります。
EXIT	回線切断 最初の文字がE, e, Q, qの場合はEXITと認識します。

※「XPOS」「VER」「PASS」などいくつかのコマンドはログイン時のみ有効です。

■仕様一覧表

通信仕様	LAN通信仕様	ARP, TCP/IP, UDP/IP, ICMP, POP3, IMAP BOOTP, DHCP, TELNET, SMTP, APOP NTP, HTTP, SNMP	
	LAN制御方法	SNMPマネージャー	
		TELNET	
		Web E-mail	
機能	電源制御/管理	電源ON	
		電源OFF	
		電源リブート	
		電源状態取得	
		グループ制御	
	スケジュール機能	週間スケジュール機能(20個)	
		NTPによる時刻同期機能	
		スケジュールON/OFF機能	
	状態監視	ICMP送信	
		通報機能:SNMPトラップ, UDPパケット	
Mail通知			
ハートビート			
WOL対応機能	あり:マジックパケット送信		
ハード仕様	インターフェース	10Base-T/100Base-TX 1 (RJ45) (IEEE802.3に準拠)	
	定格	最大制御出力	AC100V 10.5A (1050W)
		最大消費電力	5.0 W
		入力電源電圧	AC100V ±10% (50/60Hz)
	使用環境	温度	0~40°C
		湿度	20~85%(ただし結露なきこと)
	外形寸法 (脚ゴム除く)	160(W) x40(H) x160(D) mm	
重量	約1.2kg		
規格	特定電気用品認証品(電気用品安全法), RoHS指令準拠		

問い合わせ先

明京電機株式会社

〒114-0012 東京都北区田端新町1-1-14
東京フェライトビル4F
TEL 03-3810-5580 FAX 03-3810-5546

ホームページアドレス
<https://www.meikyo.co.jp>

ご注意

- (1) 本書および製品の内容の一部または全部を無断で複写複製することは禁じます。
- (2) 本書および製品の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書および製品の内容については、万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 本製品を運用した結果の影響については、(3) 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または弊社および弊社指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた障害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) 弊社指定以外のオプションを装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

PoE BOOT nino PoE8M2

取扱説明書 2019年 6月 第1.0b版

著作権所有 明京電機株式会社